

事業報告書 2022

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

I. 法人の概要

学校設立の目的等	1
教育（研究）の特色	2
設置する学校・学部・学科等	2
設置する学校・学部・学科等の学生・生徒の状況	3
設置する学校・学部・学科の入試結果	4
役員概要	5
評議員の概要	6
教職員の概要	7
施設等の状況	8

II. 事業の概要

2022年度事業報告	9
1. 改革路線の継続	9
2. 盤石な財政基盤の確立	10
3. 教育研究改革	11
4. 学生募集とキャリア支援	12
5. 学生支援の充実強化	13
6. 中高大連携強化と理系女子の育成	14
7. キャンパスや諸設備の整備	15
8. 併設校の強化	16
9. リスクマネジメント体制の強化	16
10. 地域貢献・社会貢献	16

III. 財務の概要

2022年度 決算の概要	17
資金収支計算書	18
事業活動収支計算書	19
貸借対照表、収益事業会計	20
学校別 事業活動収支内訳表	22
経年比較 資金収支計算書	23
経年比較 事業活動収支計算書	24
経年比較 貸借対照表	25
経年比較 主な財務比率（経営上の課題と 今後の方針・対応方策）	26
その他	27
参考 財産目録の概要	30

I. 法人の概要

学校設立の目的等

芝浦工業大学

芝浦工業大学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く理工学の研究を行い、世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工学教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的としています。

芝浦工業大学大学院

芝浦工業大学大学院は、理工学に関する理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的としています。

芝浦工業大学附属高等学校

芝浦工業大学附属高等学校は、教育基本法及び学校教育法に基づく併設型中高一貫校として、中学校を卒業した者に中学校教育の基礎の上に心身の発達に応じて高度な普通教育を施すことを目的としています。

芝浦工業大学柏高等学校

芝浦工業大学柏高等学校は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に従い、中学校教育の基礎の上に中学校を卒業した者に対し、高等普通教育を施すことを目的としています。

芝浦工業大学附属中学校

芝浦工業大学附属中学校は、教育基本法及び学校教育法に基づく併設型中高一貫校として、小学校を卒業した者に小学校教育の基礎の上に心身の発達に応じて義務教育として行われる普通教育を施すことを目的としています。

芝浦工業大学柏中学校

芝浦工業大学柏中学校は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に従い、小学校教育の基礎の上に、心身の発達に応じて中等普通教育を施すことを目的としています。

教育(研究)の特色

芝浦工業大学(以下、本学)は、「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神として、1927(昭和2)年に有元史郎によって、東京高等工商学校として創立されました。以来、この建学の精神のもと、実践型技術者として社会に貢献できる多くの卒業生を輩出し、社会の発展に貢献してきました。

現在、本学は工学だけではなく、理学やデザインの分野にも教育研究のフィールドを広げ、グローバル化を意識し「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工学人材の育成」を人材育成目標として教育研究を進めています。

今後も、実学重視という建学の精神を尊重しつつ、世界水準の理工学教育の実践と学生の学修成果の質保証を約束し、世界レベルの研究拠点形成と、地域との連携による学生参加型研究を実践します。また、さまざまな国籍や男女が共同で参画できる多様な環境の中で教育研究を進めることにより、複雑多様化するグローバ

ル社会において、世界の維持発展とイノベーション創出に貢献できる学生の育成を目指します。

芝浦工業大学附属中学高等学校では、理工系教育、大学連携教育、言語教育、グローバル教育、探究教育の5つを柱とし、理工系人材の育成を教育の根幹に据えています。芝浦工業大学の附属校として理工系の基礎を学び体験する授業は当然のことながら、コミュニケーションの根幹となる日本語・英語に加え、新たな可能性を生むコンピューター言語を早期に学ぶことで、世界に貢献する理工系人材育成を目指します。

「創造性の開発と個性の発揮」を建学の精神に掲げる芝浦工業大学柏中学高等学校は、自ら「問い」を立て「解決」できる人材の育成を目指し、SSH指定校として理数教育に特徴のある一貫校として取り組み続けています。近年はこの教育プログラムを発展させ、文系・理系の枠組みにとられない課題探究活動も実践しています。

設置する学校・学部・学科等

2022年度

設置する学校	学部・学科等	開校年	所在地
芝浦工業大学	工学部	1949(昭和24)年	(豊洲キャンパス) 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
	システム理工学部	1991(平成3)年	(大宮キャンパス) 〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307
	デザイン工学部	2009(平成21)年	(豊洲キャンパス) 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
	建築学部	2017(平成29)年	(豊洲キャンパス) 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
芝浦工業大学大学院	理工学研究科修士課程	1963(昭和38)年	(豊洲キャンパス) 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
	理工学研究科博士(後期)課程	1995(平成7)年	(豊洲キャンパス) 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
芝浦工業大学附属高等学校	全日制(普通科)	1954(昭和29)年	(芝浦工業大学附属中学高等学校 新豊洲校地) 〒135-8139 東京都江東区豊洲6-2-7
芝浦工業大学柏高等学校	全日制(普通科)	1980(昭和55)年	(芝浦工業大学柏中学高等学校 柏校地) 〒277-0033 千葉県柏市増尾700
芝浦工業大学附属中学校		1982(昭和57)年	(芝浦工業大学附属中学高等学校 新豊洲校地) 〒135-8139 東京都江東区豊洲6-2-7
芝浦工業大学柏中学校		1999(平成11)年	(芝浦工業大学柏中学高等学校 柏校地) 〒277-0033 千葉県柏市増尾700

設置する学校・学部・学科等の学生・生徒の状況

(学生・生徒・入学者数は2022年5月1日現在)

大学

(単位：人)

芝浦工業大学(学部)	学 科	入学定員数	総定員数	在籍数
工学部	機械工学科	114	457	520
	機械機能工学科	114	457	504
	材料工学科	104	417	414
	応用化学科	104	417	462
	電気工学科	104	417	433
	情報通信工学科	104	417	473
	電子工学科	104	417	450
	土木工学科	104	417	426
	情報工学科	114	457	498
	先進国際課程	9	18	16
システム理工学部	電子情報システム学科	115	460	489
	機械制御システム学科	90	360	391
	環境システム学科	90	360	402
	生命科学科	115	460	456
	数理科学科	75	300	313
デザイン工学部	デザイン工学科	160	640	682
建築学部	建築学科	240	960	1,033
合計		1,860	7,431	7,962

大学院

(単位：人)

芝浦工業大学(大学院研究科)	専 攻	入学定員数	総定員数	在籍数
理工学研究科修士課程	電気電子情報工学専攻	110	220	348
	材料工学専攻	40	80	109
	応用化学専攻	30	60	80
	機械工学専攻	85	170	242
	建設工学専攻*	-	-	15
	システム理工学専攻	75	150	291
	国際理工学専攻	10	20	27
	社会基盤学専攻	25	50	48
	建築学専攻	110	220	303
理工学研究科博士(後期)課程	地域環境システム専攻	12	36	36
	機能制御システム専攻	15	45	38
合計		512	1,051	1,537

*建設工学専攻は2021年度より募集停止

高等学校・中学校

(単位：人)

併設高等学校・中学校	入学定員数	総定員数	在籍数
芝浦工業大学附属高等学校	172	516	655
芝浦工業大学柏高等学校	296	888	922
芝浦工業大学附属中学校	160	480	494
芝浦工業大学柏中学校	180	540	588
合計	808	2,424	2,659

設置する学校・学部・学科の入試結果 - 2023年度入試 -

大学 一般入試(大学入学共通テスト利用方式(後期)除)

(単位:人)

芝浦工業大学(学部)	学 科	募集	志願者数	合格者数
工学部	機械工学科	83	3,061	812
	機械機能工学科	83	1,705	550
	材料工学科	78	1,487	688
	応用化学科	78	2,169	664
	電気工学科	78	2,205	706
	電子工学科	78	1,706	553
	情報通信工学科	78	2,190	460
	情報工学科	83	3,392	655
システム理工学部	土木工学科	78	1,403	526
	電子情報システム学科	81	2,006	410
	機械制御システム学科	64	1,277	517
	環境システム学科	64	1,360	305
	生命科学科 生命科学コース	40	1,347	334
デザイン工学部	生命科学科 生命医学コース	40	1,023	373
	数理科学科	46	1,382	671
デザイン工学部	デザイン工学科(生産・プロダクトデザイン系)	58	1,307	248
	デザイン工学科(ロボティクス・情報デザイン系)	58	1,533	316
建築学部	建築学科 APコース(先進的プロジェクトデザインコース)	18	661	139
	建築学科 SAコース(空間・建築デザインコース)	71	2,312	347
	建築学科 UAコース(都市・建築デザインコース)	71	2,252	477
合計		1,328	35,778	9,751

大学 一般入試(大学入学共通テスト利用方式(後期))

(単位:人)

学部	募集	志願者数	合格者数
工学部	18	455	139
システム理工学部	10	228	79
デザイン工学部	4	102	30
建築学部	4	124	31
合計	36	909	279

大学 一般入試(2022年秋入試)

(単位:人)

学部	募集	志願者数	合格者数
先進国際課程	9	35	11

(単位:人)

大学	募集	志願者数	合格者数
合計	1,373	36,722	10,041

大学院

(単位:人)

芝浦工業大学(大学院理工学研究科)	専 攻	入学定員数	志願者数	合格者数
理工学研究科修士課程	電気電子情報工学専攻	110	235	226
	材料工学専攻	40	51	49
	応用化学専攻	30	50	50
	機械工学専攻	85	152	148
	システム理工学専攻	75	150	144
	国際理工学専攻	10	19	18
	社会基盤学専攻	25	42	41
	建築学専攻	110	192	187
理工学研究科博士(後期)課程	地域環境システム専攻	12	16	16
	機能制御システム専攻	15	23	22
合計		512	930	901

※2023年春入学・2022年秋入学入試の合算

高等学校・中学校

(単位:人)

併設高等学校・中学校	募集	志願者数	合格者数
芝浦工業大学附属高等学校	50	230	69
芝浦工業大学柏高等学校	約120	1,298	415
芝浦工業大学附属中学校	160	1,609	237
芝浦工業大学柏中学校	180	2,292	599
合計	510	5,429	1,320

役員概要

(2023年3月31日現在)

定員数 理事12人 監事3人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	鈴木健夫	常勤	2009年6月 理事に就任 2012年6月 理事に重任 2015年6月 理事に重任(事業担当) 2018年6月 理事に重任(事業担当) 2020年2月 学校法人芝浦工業大学理事長に就任 2021年6月 学校法人芝浦工業大学理事長に重任(現在に至る)
常務理事 (学長)	山田純	常勤	2018年6月 理事に就任(施設担当) 2021年4月 理事に就任(職務上理事)(現在に至る)
専務理事	大室康一	常勤	2015年10月 監事に就任 2018年6月 監事に就任 2020年2月 理事に就任(理事長補佐) 2021年6月 理事に重任(理事長補佐)(現在に至る)
常務理事	野口一也	常勤	2015年6月 理事に就任(職務上理事) 2018年6月 理事に重任(理事長補佐) 2021年6月 理事に重任(理事長補佐 学事担当 産学官民連携担当 (SBMC・BOICE))(現在に至る)
理事	苅谷義治	常勤	2021年6月 理事に就任(入試担当 奨学金担当)(現在に至る)
理事	西川宏之	常勤	2021年6月 理事に就任(研究担当 施設担当 DX担当)(現在に至る)
理事	佐藤元哉	常勤	2021年6月 理事に就任(中学校・高等学校担当)(現在に至る)
理事	満重信之	常勤	2021年6月 理事に就任(監査担当 危機管理室担当 新規事業担当 百周年記念事業担当 募金担当)(現在に至る)
理事	丁龍鎮	常勤	2021年6月 理事に就任(総務・広報担当 地域連携担当)(現在に至る)
理事	神谷優子	常勤	2022年6月 理事に就任(財務担当 ダイバーシティ推進担当)(現在に至る)
理事	加藤善次郎	非常勤	2018年6月 理事に就任(校友会後援会担当) 2021年6月 理事に重任(校友会後援会担当)(現在に至る) (株式会社日本環境設計 代表取締役)
理事	吉池富士夫	常勤	2021年6月 理事に就任(キャリアサポート・就職担当)(現在に至る) (株式会社吉池事務所 代表取締役)
監事	秋山豪	常勤	2015年6月 監事に就任 2018年6月 監事に重任 2021年6月 監事に重任(現在に至る)
監事	秋山進	常勤	2015年6月 監事に就任 2018年6月 監事に重任 2021年6月 監事に重任(現在に至る)
監事	朱田光洋	非常勤	2018年6月 理事に就任(監査担当) 2021年6月 監事に就任(現在に至る) (朱田税務会計事務所 所長)

評議員の概要

(2023年3月31日現在)

評議員定数 45人

区分	氏名	所属・勤務先
評議員	山田 純	芝浦工業大学 学長(工学部先進国際課程)
評議員	苅谷 義治	芝浦工業大学 工学部長(工学部材料工学科)
評議員	澤田 英行	芝浦工業大学 システム理工学部長(システム理工学部環境システム学科)
評議員	山崎 憲一	芝浦工業大学 デザイン工学部長(デザイン工学部デザイン工学科)
評議員	秋元 孝之	芝浦工業大学 建築学部長(建築学部建築学科)
評議員	佐藤 元哉	芝浦工業大学 附属中学高等学校 校長
評議員	中根 正義	芝浦工業大学 柏中学高等学校 校長
評議員	西川 宏之	芝浦工業大学 工学部電気工学科 教授
評議員	高崎 明人	芝浦工業大学 副学長(工学部機械機能工学科)
評議員	渡部 英二	芝浦工業大学 副学長(システム理工学部電子情報システム学科)
評議員	上岡 英史	芝浦工業大学 工学部先進国際課程 教授
評議員	ミリアム ムラリダ	芝浦工業大学 工学部先進国際課程 教授
評議員	新井 剛	芝浦工業大学 工学部材料工学科 教授
評議員	伊藤 和寿	芝浦工業大学 システム理工学部機械制御システム学科 教授
評議員	川上 幸男	芝浦工業大学 システム理工学部機械制御システム学科 教授
評議員	三好 匠	芝浦工業大学 システム理工学部電子情報システム学科 教授
評議員	志村 秀明	芝浦工業大学 建築学部建築学科 教授
評議員	清水 郁郎	芝浦工業大学 建築学部建築学科 教授
評議員	橋田 規子	芝浦工業大学 デザイン工学部デザイン工学科 教授
評議員	柴田 邦夫	芝浦工業大学 附属中学高等学校 高等学校 教頭
評議員	佐藤 文博	芝浦工業大学 柏中学高等学校 中学校 教頭
評議員	吉川 倫子	学校法人芝浦工業大学 研究推進室担当室長
評議員	丁 龍鎮	学校法人芝浦工業大学 豊洲学事部長 研究推進室長
評議員	猪田 政彦	学校法人芝浦工業大学 国際部長
評議員	祖父江 一郎	学校法人芝浦工業大学 情報システム部長
評議員	三船 毅明	学校法人芝浦工業大学 大宮学事部長
評議員	加藤 善次郎	株式会社日本環境設計 代表取締役
評議員	谷川 潮	いすゞ車体株式会社 社長補佐
評議員	中村 宏	サンエス工業株式会社 会長
評議員	吉池 富士夫	株式会社吉池事務所 代表取締役
評議員	柏本 保	株式会社アーキノヴァ設計工房 代表取締役
評議員	文倉 辰夫	株式会社HEXEL Works 副社長 執行役員
評議員	増山 栄	株式会社増山栄建築設計事務所 代表取締役
評議員	米澤 稔	株式会社よねざわ工業 取締役相談役
評議員	岩瀬 吉廣	元阪神電気鉄道株式会社 代表取締役専務
評議員	木村 増夫	学校法人上智学院 理事
評議員	小林 浩	リクルート進学総研 所長
評議員	渡辺 秀雄	株式会社ゼンショーホールディングス 社外取締役(監査等委員)
評議員	潮江 宏三	元京都市立芸術大学 学長
評議員	濱田 正久	株式会社クリプトン 代表取締役会長
評議員	藤原 未来子	一般社団法人日本サイバーセキュリティ・イノベーション委員会 事務局長
評議員	町田 裕紀	西村・町田法律事務所 弁護士
評議員	亀井 信明	株式会社高等教育総合研究所 代表取締役
評議員	西川 史子	山脇学園中学校・高等学校 校長

教職員の概要

(2022年5月1日現在)

1. 大学教員数

(単位：人)

所属	資格	専任					合計	非常勤	合計
		教授	准教授	助教	講師	教諭			
	学長	1					1	0	1
	副学長	2					2	0	2
工学部	機械工学科	13	2	1	0	0	16	15	31
	機械機能工学科	10	5	1	0	0	16	5	21
	材料工学科	13	3	1	0	0	17	11	28
	応用化学科	15	1	0	0	0	16	2	18
	電気工学科	10	4	1	0	0	15	9	24
	情報通信工学科	10	4	2	0	0	16	8	24
	電子工学科	13	2	0	0	0	15	9	24
	土木工学科	14	3	0	0	0	17	8	25
	情報工学科	13	2	1	0	0	16	7	23
	先進国際課程	10	5	4	0	0	19	0	19
	共通学群	0	0	0	0	0	0	114	114
システム理工学部	電子情報システム学科	11	4	1	0	0	16	14	30
	機械制御システム学科	13	1	1	0	0	15	12	27
	環境システム学科	14	3	0	0	0	17	41	58
	生命科学科	10	6	0	0	0	16	23	39
	数理科学科	8	4	1	0	0	13	15	28
デザイン工学部	デザイン工学科	13	7	0	0	0	20	55	75
建築学部	建築学科	27	6	2	2	0	37	110	147
大学院	理工学研究科	0	1	0	0	0	1	21	22
その他	教育イノベーション推進センター	9	6	0	1	0	16	6	22
	SIT総合研究所	2	4	6	0	0	12	0	12
	マレーシア	1	0	0	0	0	1	0	1
	学長室	1	0	0	0	0	1	0	1
合計		233	73	22	3	0	331	485	816

※専任者には、特別任用教員、プロジェクト研究教員、シニア教員(いずれも有期雇用者)を含んでいます。
 ※学長は工学部先進国際課程・教授、副学長は機械機能工学科・教授及び電子情報システム学科・教授。当該学科からは除外しています。
 ※2022年5月1日現在の情報であり、2023年2月1日就任の副学長磐田先生は環境システム学科でカウントしています。

2. 併設高等学校・中学校

(単位：人)

所属	資格	教諭	非常勤	計
高等学校	芝浦工業大学附属高等学校	37	11	48
	芝浦工業大学柏高等学校	42	25	67
中学校	芝浦工業大学附属中学校	30	10	40
	芝浦工業大学柏中学校	34	13	47
合計		143	59	202

※専任含む

3. 職員数

(単位：人)

所属	資格	専任職員※	非専任			計	派遣職員
			ポスドク	TA・LF	臨時職員		
豊洲		97	2	275	92	466	47
大宮		46	2	108	83	239	26
芝浦		41	0	23	12	76	15
新豊洲		5	0	0	11	16	2
柏		5	0	0	3	8	5
合計		194	4	406	201	805	95

※専任者には、特定職員(有期雇用者)を含んでいます。
 ※ポスドク・TA・LFは、大学院の各研究科に所属しています。

施設等の状況

(2023年3月31日現在)

1. 現有施設の所在地等の説明

所在地	施設等	面積等 (㎡)	取得価額 (千円)	帳簿価額 (千円)	摘要
東京都江東区豊洲3丁目7番5号	校地	30,000.00	8,821,152	8,821,152	工学部3・4年、デザイン工学部3・4年、建築学部、大学院理工学研究科が使用している。
	校舎3棟	101,761.93	46,728,542	35,811,478	
埼玉県さいたま市見沼区 大字深作307番地	校地	170,180.94	1,825,262	1,825,262	工学部1・2年、デザイン工学部1・2年、システム理工学部、大学院理工学研究科が使用している。
	校舎13棟他	65,117.62	20,627,045	8,553,395	
埼玉県さいたま市見沼区 東大宮2丁目4番3号	寄宿舍(借室)	-	7,646	4,080	男子学生寮として建物一括借用(敷地1,636.00㎡、建物2,388.41㎡)。本学資産は追加した付属設備部分。
千葉県柏市増尾700番地	校地	44,843.85	1,227,790	1,227,790	柏中学高等学校が使用している。 7,895.83㎡の借地面積を含んでいない。
	校舎8棟他	15,816.72	3,868,724	1,451,224	
東京都江東区豊洲6丁目2番7号	校地	14,499.03	6,228,249	6,228,249	附属中学高等学校が使用している。
	校舎3棟	18,087.80	6,434,397	5,135,305	
埼玉県さいたま市西区 大字二ツ宮字岸ノ町113番地1	運動場管理施設用地 (区分所有)	124.50	8,684	8,684	
	管理事務所 (区分所有)	59.61	10,907	4,663	
東京都港区芝浦3丁目9番14号	事業用敷地	2,624.00	395,251	395,251	収益事業として全棟貸しを行っている。
	事業用建物	12,491.62	3,085,796	3,025,756	

2. 2022(令和4)年度の主な施設の取得又は処分及び進捗状況

- 1) 豊洲キャンパス：本部棟が竣工しました。併せて既存棟活用のための整備改修工事を進めています。
- 2) 大宮キャンパス：3・5号館教室の換気設備強化工事を行いました。
- 3) 芝浦キャンパス(以後芝浦工大ビル)：デザイン工学部・法人事務部・校友会事務局が豊洲キャンパスへ移転後、10月より全棟貸しの収益事業として展開しています。
- 4) 柏中学高等学校：ホール棟GHP室内機更新工事を行いました。
- 5) 附属中学高等学校：創立100周年記念事業の一環として、受贈した元鉄道院403号機関車の設置工事を行いました。

3. その他保有資産(図書、教具・校具及び備品)の説明

1) 図書

区分	冊数			価額(円)
	内国書(冊)	外国書(冊)	計(冊)	
図書	262,887	16,653	279,540	1,269,646,108
学術雑誌	16,637	16,583	33,220	96,477,236
計	279,524	33,236	312,760	1,366,123,344

2) 教具・校具及び備品

名称又は種類	数量(点)	価額(円)
教具・校具	59,660	3,304,215,714
備品	4,510	834,804,578
計	64,170	4,139,020,292

Ⅱ. 事業の概要

2022年度事業報告書

1. 改革路線の継続

熾烈な大学間競争に勝ち抜き中長期の大目標を実現するには、迅速な意思決定により他大学に負けないスピードで改革を実行することが必要です。この考えのもと学校法人芝浦工業大学（以下、本学）のガバナンス改革では、私立学校法に基づき、理事会を最終的な権限と責任を担う最高意思決定機関であることを明確化し、また設置学校の中心である大学の学長のリーダーシップ確立を目的に、教職員による選挙方式から、学長候補者選考委員会が学長候補者を選考し理事会において決定する「学長候補者選考委員会方式」に改めています。理事及び評議員の選任についても「選考委員会方式」に改めました。また、2025年に改正される私立学校法に対応するため、ガバナンス改革検討委員会を設置し、本法人の更なるガバナンス改革の推進へ向けて議論を重ねております。このように、鈴木理事長体制の下で、本学が創立100周年を迎える2027年に「我が国の理工学系私学としてトップの社会的評価を得る」という中長期目標の実現をめざし、教職員一丸となり全力で取り組んでおります。創立100周年を見据えた重点施策テーマは、改革路線の継続による組織運営体制の強化、学校法人を持続可能とする盤石な財政基盤の確立、スーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業の推進、教育研究改革及び学生支援の強化、大宮キャンパス施設設備計画、ダイバーシティ、DX化の推進、更に2019年度から本格始動した100周年記念事業駅伝プロジェクトの推進等であり、これらの実現に向け「将来ビジョン検討委員会」等にて検討を重ね、経営資源の戦略的な選択と集中を図りました。

■ 理事会、監事会議等

2021年6月27日発足した現理事会は、2022年3月末に理事1名が退職しました。この欠員の充足として、学校法人芝浦工業大学理事推薦委員会の推薦により、2022年6月27日に新理事1名が選任され、鈴木理事長、職務上理事である山田学長を含む12名の理事体制となっています。監事についても、2021年6月27日に新たな新監事会議が発足し、現在2名の常勤監事、1名の非常勤監事の3名体制となっています。この理事長、理事会、監事会議と学長の連帯感のある体制により、大学改革を迅速かつ適切に展開する環境が整っており、2022年度も教職協働でスピーディな改革を実現してまいりました。

■ エンゲージメント調査の実施

2020年度に事務職員を対象に始め、2021年度は大学教員・併設校教員を対象を広げ、2022年度は全教職員に対して実施し、前年度と比較するデータが取得できました。事務職員や大学教員、併設校教諭のそれぞれにおいて、肯定的回答が増えたところや、否定的回答が増えたところなどが明らかになり、それぞれの課題点や取り組むべき問題などを認識することができました。2023年度は、これらの改善に向け個別に対応策を検討していく予定です。

■ 将来ビジョン検討委員会における検討

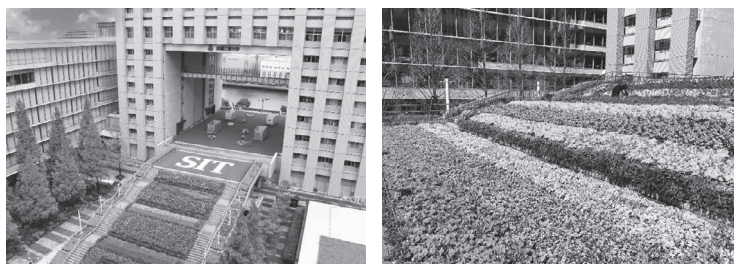
本学は、経営ビジョン「我が国の理工系私学としてトップの社会的評価を得る」に向けたブランディング戦略および学生満足度No.1を目指すことを目標としています。そのため本法人の発展構想及び各キャンパスの価値最大化などにより経営資源の活用を図り、将来構想（将来ビジョン）を検討することを目的に2020年9月から「将来ビジョン検討委員会」を設置しました。まず、大方針となるテーマを決めた後、2021年度から豊洲、大宮、芝浦、併設校の4つの分科会に分かれ、豊洲キャンパスの価値最大化活用計画や大宮キャンパスのシステム理工学部改組計画、キャンパスマスタープラン計画、芝浦キャンパスにおける新規事業分野の創出、中高の将来計画の5項目を検討テーマとして、理事会、教学執行部、事務職員、外部有識者を交えて各種検討を進めてきました。この「将来ビジョン検討委員会」が2021年1月及び2022年4月に理事会に対して提出した答申を基に、法人、デザイン工学部の豊洲移転、芝浦キャンパスでの収益事業、大宮キャンパスマスタープラン検討を実施いたしました。なお「将来ビジョン検討委員会」は2023年度も「学部生1万人、大学院生2,500人を目指し名実共に理工系のトップランナーになる」ための検討内容をテーマに継続的な運営を行います。具体的には、年度ごとに決められたテーマに沿って検討を進め、具体的な検討内容は新たに委員会を設置し引き継ぐこととしました。最終的には創立100周年を迎える2027年には「アジア工科系大学トップ10」と「学生満足度No.1」の社会的評価を得るとともに盤石な財務基盤の確立を目標としています。

■ 地域に開かれた豊洲キャンパス、新豊洲キャンパス

芝浦工業大学豊洲キャンパス

① フラワーガーデン

大階段に整備したフラワーガーデンは、四季折々の花を楽しめるよう年4回季節ごとの植え替えをしています。一年草や多年草を季節ごとに工夫を凝らして配置し、教員、職員、学生によるフラワーガーデンプロジェクトメンバーにて日常の花の管理や造園デザインを実施しました。また、植え替え時には学生教職員、近隣保育園、地域住民向けに花配布会を実施しています。



フラワーガーデン全景（左）と四季により入れ替える花々（右）

②シバウラキッズパーク

研究棟のトップステージ上に約1,400㎡の遊び場を再構築しました。2022年に竣工した豊洲キャンパス本部棟の建設前は、キャンパス内の広場で、近隣の保育園児が自由に遊ぶ場として公開されていました。本部棟建設で失われた「遊び場」を取り戻すため、芝浦キッズパークを整備しました。シバウラキッズパークではクリスマスツリー前でサンタクロースによるプレゼント配布等、季節ごとのイベントを実施しました。



キッズパーク遊具(左)とクリスマスイベント(右)

③レストラン・カフェ

本部棟1階には、世界的建築家である坂 茂氏(坂茂建築設計)設計による特徴的なデザインのカフェとレストランを2022年9月にオープンしました。カフェは、「セガフレード・ザネッティ」が日本で初めて大学キャンパス内にオープンした、SIT Global Caffè empowered by Segafredoです。レストランは、1971年に銀座で創業した老舗の洋食店である銀座シシリア豊洲店です。これらの店舗は、学生教職員、近隣業者、近隣住民の憩いの場として新たな風景をキャンパス内にもたらしました。



SIT Global Caffè empowered by Segafredo店内(左)と銀座シシリア豊洲店内(右)

④有元史郎記念校友会館・交流プラザ

2022年9月20日に開催した豊洲キャンパス完成お披露目会に合わせ、有元史郎記念校友会館・交流プラザ(元製図室棟「アーキテクチャプラザ」)をオープンしました。芝浦校舎から移転してきた校友会事務局と多目的使用が可能な交流プラザを備え、卒業生同士または卒業生と在学生の交流の場所、地域交流・地域貢献の一環として、公開講座や多様なイベントが開催されるスペースとなりました。オープニングイベントとして、「リカルド・ボフィル追悼回顧展」を開催し多くの学内外の来場者を集めました。



有元史郎記念校友会館外見(左)とリカルドボフィル展(右)

⑤ストリートピアノ

本部棟SIT Global Caffè empowered by Segafredoの2階部分に誰でもキャンパス利用者が自由に演奏できる、キャンパスピアノが設置されました。毎日9時~19時の間で使用可能です。



キャンパスピアノ(左)ダットサン16型セダン(右)

⑥ダットサン16型セダン

豊洲キャンパス完成お披露目会と同時に本部棟1階には卒業生より寄贈を受けたダットサン16型セダン除幕式を実施しました。1937年製造のダットサン16型セダンを間近で見ることが可能です。

芝浦工業大学附属中学高等学校

403号機関車と高輪築堤オブジェ・高輪築堤築石モニュメントを公開空地に設置しました。前身が旧鉄道省の設置した東京鐵道中学であること、また現在も「しばうら鐵道工学ギャラリー」を設置しており、鐵道とは非常に縁が深いことから、地域また社会的広報価値が高い蒸気機關車(SL)の設置を芝浦工業大学附属中学高等学校100周年事業として、決定しました。車両については、西武鐵道株式会社が保有している元鐵道院403号機關車の寄贈を受け、2022年11月の創立100周年記念式典において除幕式がおこなわれました。当日は地元自治会による「ようこそSLまつり」が隣地の豊洲六丁目第二公園周辺でおこなわれ今では新豊洲の新名物として多くの人たちに地域のシンボルとして愛されることを期待します。



SL設置作業(左)と展示されたSL(右)

■ 教員人事評価制度の導入

教育職員の人事評価制度については、教育職員人事評価制度検討準備委員会において、評価が処遇に反映される制度の構築を目指した答申案をまとめ、学長および学長室メンバーと共に、人事評価項目の整理とその評価方法について詳細設計を行いました。2023年度には人事評価制度の試行をする予定です。

■ 職員研修体系の改善

コロナ禍において、研修形態が対面式からオンライン主流へ大きく変わり、人脈形成も兼ねた研修から、知識習得が中心のもの、人脈

形成中心とするものなど研修意図の棲み分けを明確にしました。またコロナ以前では多く見られた人事課からの指名型研修は、本人の学習意欲とマッチしない状況も発生し、事務職員は研修に対する期待が薄れていました。これらを受け、研修体系の大幅な改善に着手し階層別研修や管理職研修、考課者・被考課者研修など必須の人事研修のほか、自主的な意欲を尊重した研修（オンデマンド研修など）を多く取り揃え、事務職員の成長意欲を促進する形で体系を改善しました。2023年度より実際に運営する形で進めていきます。

■ 働き方改革への対応

大学教員については、ワークライフバランスアンケート（男女共同参画推進室主管）を元に、ベビーシッター補助金制度を利用すべく検討を行い、2023年度中に利用可能として進めています。また、併設校教諭については、2019年2月に、長時間労働問題に対応すべく、業務改善と部活動外部指導員の導入などについて検討する委員会を発足し、併設校の教諭への説明を経て、2021年7月から1年単位の変形労働時間制を導入しました。2022年度は、変形労働時間カレンダーと業務（学年分掌など）の改善に取り組み、2023年3月に外部指導員を提供している数社から説明をうけ、導入するための手続きを進めています。事務職員については、在宅勤務に関する規程を制定し、多様な働き方を支援する体制を整えました。

■ 芝浦工業大学創立100周年記念事業「駅伝プロジェクト」

芝浦工業大学創立100周年に向けた記念事業の一環として、2018年度から始動した「駅伝プロジェクト」を2022年度も引き続き推進しました。我が国の国民的行事とも言える東京箱根間往復大学駅伝（箱根駅伝）を通じ本学の知名度、ブランド力を向上させるとともに文武両道の逞しい理工学人材輩出を目的としています。公募制推薦入学者選抜では、2019年度の6人、2020年の10人、2021年の12人に続き2022年4月には8人が入学し、駅伝部専用寮である白亜寮に入寮、勉学と練習の両立に励みました。これで公募制推薦入学者選抜入学選手が1年次から4年次まで在籍し、いよいよ箱根駅伝本戦出場に向け本格的な挑戦を進めていくことになります。第99回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会では、芝浦工業大学チームとして過去最高順位となる20位を記録しました。関東学生連合チームには橋本章央さんが選出され、第99回東京箱根間往復大学駅伝競走では往路5区（小田原～芦ノ湖20.8km）を走り2人の選手を抜き順位を上げる力走で9位相当の区間順位を記録しました。駅伝プロジェクトでは、創立100周年の2027年までにチームとしての箱根駅伝本戦出場を目指してまいります。



第99回東京箱根間往復大学駅伝競走往路5区ゴール

■ 芝浦工大ビルでの収益事業開始

2022年4月、芝浦工業大学豊洲キャンパス本部棟の完成により芝浦キャンパスで教育研究を展開しているデザイン工学部と法人本部、校友会本部等が豊洲キャンパスに移転し、芝浦キャンパスを有効活用するため全棟貸しの収益ビル事業（ビル名称：芝浦工大ビル）を開始しました。この事業は「建学の地」を残しつつ、財政基盤の強化、教育研究の整備・発展に寄与することを目的とし、収益事業から得られる収益を学校経営に充て、更に盤石な経営体制の確立と安定的な収入源を確保することを目的としています。

2. 盤石な財政基盤の確立

本学の持続的な発展を実現するためには、盤石な財政基盤を堅持しつづけることが必要であり、その実現のため、中長期的な財政見通しを踏まえた計画的な財政運営に努めています。

2022年度は、2020年度に実施した大学学費の増額改定や大学院修士課程の在籍学生数の増加により前年度比で増収となりましたが、支出面は光熱費をはじめとする諸物価の高騰、ウィズコロナでの各種事業の再開、豊洲本部棟関連費など、前年度比で増大しました。芝浦工大ビルからは長期間の安定した賃料が入りますが、この新たな収入に頼らず、事務経費は継続して厳格な管理を行い、施設設備整備計画も取捨選択を行い、収支改善の取組を続けます。

2023年度から大宮キャンパス再整備が始まり、これに続けて柏中学高等学校の校舎整備等の大型投資も控えており、収支面の強化と内部留保の充実化が課題となります。今後も外部資金の積極的な獲得や支出の抑制などを推進し、盤石な財政基盤を確立していきます。

3. 教育研究改革

■ スーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業の推進

芝浦工業大学は「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神として設立され、有為な人材を社会に送り出すことで高い評価を得ています。その考えを現代に展開した「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工学人材の育成」を教育目標とし、2027年の創立100周年にも輝き続ける大学としての地位を維持し、更に前進するため、2022年度も学長のもと全学的な教職学協働による大学改革を展開しました。

2014年に採択されたスーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業においても、本学は世界水準の工学教育を教職学協働で進めることを合言葉に、本事業の終了年度である2024年3月までにこの目標の完遂を目指し、2022年度も全学を挙げて推進しました。「コロナ2019」の出口が見え始めた2022年度においても、日本国政府や一部の派遣先国では依然として水際対策を継続していましたが、芝浦工業大学は学生の海外派遣及び留学生受入れの全面的再開に踏み切りました。派遣先では徹底した感染予防をはじめ、感染した学生には引率教職員と協定校教職員が一丸となって適切に対応しました。その結果、渡航型プログラム835人とオンライン

ンコース206人、計1,041人の学生が、無事に派遣プログラムに参加することができました。同様に、海外協定校の学生にも渡航型の授業履修プログラム(サンドウィッチプログラム)や研究指導プログラムを提供し、1,014人(うち174人はオンライン)の学生が参加しました。2022年度は、ロシアによるウクライナ侵攻や急激な円安による海外渡航費の高騰という、留学には深刻なマイナス要因が重なりましたが、派遣・受入れ実績はパンデミック前々年の実績に迫る結果を残し、SGU事業最終年度の2023年度に繋げることができました。



学生ラウンジでの様子

■ 研究活動の強化

本学は、創立100周年に向けたアクションプラン(Centennial SIT Action)の中で、「研究力強化」を掲げています。その具体化に向け「SIT研究ビジョン」を策定し、研究活性化、公的研究資金の獲得、産学連携・社会実装、研究力強化組織体制の重点項目に取り組んでいます。2022年度は、創立100周年にむけた6年間で本学の「飛躍期」への移行期と捉え、2016年策定の「発展期」のビジョンを大幅に改訂しました。具体的には、研究「人材」、「資金」、「環境」の改善を一層押し進め、研究の大型化を目指し、大学と企業による「共同研究講座制度」の新設や「戦略的産学連携経費」を導入した他、国プロジェクト等の大型研究費を獲得した教員を「重点支援教員」と位置づけ、URA(University Research Administrator)拡充による伴走支援の強化や若手研究者向けの称号付与制度の規程化などを行いました。

■ ベイエリア・オープンイノベーションセンター

2022年10月、バイエリア・オープンイノベーションセンター(通称「BOICE」)が豊洲キャンパスに誕生しました。本学初の研究力強化やベンチャー支援・創出のための拠点であり、本部棟10階産学官民連携ラボ(本部棟)は10室中8室の入居が決定し企業との共同研究や大型国プロジェクトの研究を開始している他、シェアオフィスへ1ブース申し込みがありました。研究棟産学官民連携ラボ(ウェット系 2023年度よりオープン)や共通機器センター、先進製造プロセス研究センターを有するセンターの名称には、BOICEで実現する5つのオープンイノベーションとして、Laboratory(オープンイノベーションによる共同研究の推進)、Learning(学生・教員・社会人の起業家教育実践の場)、Social(地域と共に地域課題、社会課題を解決)、Resource(BOICE利用者に学内設備・機器を提供)、Field(大学を実証の場として開放)の意味が込められています。その実現に向けて、学外の専門家支援やネットワークも拡充し、大学の立地する江東区やさいたま市などの自治体や企業、金融機関、研究機関等14機関が参画するSITオープンイノベーション協創ネットワークを立ち上げ、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)との起業家支援に関する連携協定締結、GTIE(※)へ参画いたしました。BOICEの活動を支援する制度として、大学発ベンチャー認定・支援制度の規程化、スチューデント・ジョブ制度にISS(Innovation Student Staff)の創設などを行いました。

※GTIE(Greater Tokyo Innovation Ecosystem)世界を変える大学発スタートアップを育てるため、起業活動支援、アントレプレナーシップ人材の育成、起業環境の整備、エコシステム形成の4つの活動を、東京大学、早稲田大学、東京工業大学が共同主幹機関として実施するプログラム



BOICEロゴ(左)とSITインキュベーションスクエアの coworkingスペース(右)

■ 芝浦ビジネスモデルコンペティション

急激な変化に対応し新しい価値を生み出す人材(アントレプレナー)の育成は社会の要請であります。第7回を迎えた芝浦ビジネスモデルコンペティション(通称SBMC)は、44チーム(対前年38%増)、160名(23%増)が参加し、最終審査会は本部棟阿出川シアターで行われました。学生による、身近な課題を発見し解決するアイデアから、テクノロジーを活用し新しい市場創造に挑戦するアイデアまで、多様なビジネスモデルの考案と実現を支援する企画であり、ビジネスを一から考える経験や異能チームで成果を出す経験は、起業への道であると同時に、コミュニケーション力やプレゼン力の向上やアントレプレナーシップの涵養が期待されます。2023年度からは、正課科目においてもアントレプレナー教育が体系化されます。今後もより多くの学生の参加を促す取り組みを継続します。

■ ダイバーシティ推進

工学分野では女性の少なさが社会的課題であり、芝浦工業大学では、2013年度男女共同参画推進室設置以降、女性教員の採用、女子学生の増加に全学的に取り組んでいます。2022年度は、女性教員19.1%(前年度19%)、学部女子学生19.1%(前年度18.7%)、女子大学院生17.2%(前年度15.7%)。大学院進学率は男子38.3%、女子37.8%と僅差)、女性職員44.6%(昨年度45.6%)と推移しておりますが、一方で国立大学での女性教員採用強化や国・私立理工系他大学における女子学生推薦枠の設置などが本学の施策に次いで行われてきており、危機感を持って更なる努力が必要です。

また、well-beingを感じられる環境の実現を目指し、大学教員を対象にワークライ



女性職員座談会[私立大学における女性職員のキャリアとwell-beingについて]

フバランス調査を行った結果、様々な問題が浮き彫りとなり、関係部署と対応策を協議しています。ほかに大宮キャンパスにおけるオープンキャンパスでは、システム理工学部主催(入試部・男女共同参画推進室共催)の「女子高生の知らない工業大学の世界～私たち8人の理工ストーリー」と題したシンポジウムを開催。芝浦工業大学警田副学長の講演、山脇学園西川校長の話に続き、8人の女子学生とのパネルディスカッションが行われ、女子学生の実体験が本音で語られることで、好評を得ました。また女性職員座談会「私立大学における女性職員のキャリアとwell-beingについて」やshiba-joプラチナネットワーク主催の女子学生とロールモデルとなる卒業生との懇談会も実施しました。

■ DX推進

理工学教育研究機能の強化やグローバル化の加速、教職学協働の活動など多岐にわたる改革を支援するため、芝浦工業大学内のDX化を一層推進しました。教育のDX化施策としては、コロナ禍における授業運営により得られた知見を活かし、ハイブリッド授業、ハイフレックス授業等による、より効果的で学生の学びが向上する授業を推進しました。また、LMSの利用が一般的となり、2021年度採択された文部科学省Plus-DX事業によって導入したラーニングアナリティクス基盤を一層活用し、これらから得られる教育データを積極的に活用する個別最適化を進めました。事務部門におけるDX化施策については、ワークフローシステムの導入や、会議室の簡易予約システムなどを構築し、業務効率化、情報共有の強化、ペーパーレス化等を一層進めました。また、事務系職員全員にノートPCおよびスマートフォンを配布し、働き方改革の一助とするテレワーク環境の向上をはじめ、コミュニケーション強化や業務遂行の円滑化を図りました。さらに、教育システム、研究システム、運営システムにおいて本学ICT化の進捗状況を他大学と細部にわたり比較して、本学の強み、弱みを洗い出し、今後のDX施策に役立てるようベンチマーキングを実施しました。近年の情報システムは技術革新のスピードが速いため、最新技術の動向を常にウォッチし、学内システムへの適切な提供を行う体制を整える必要がある一方、情報セキュリティの対策が重要な課題となっています。2022年度に芝浦工業大学情報セキュリティ基本規程を制定し、マネジメント体制を強化するとともに最新の保全システムを導入し、脅威に対して迅速かつ安全に対応しました。

4. 学生募集とキャリア支援

■ 学生募集

芝浦工業大学において、2022年度は「大学の根幹となる入試の安定化を目指した入試制度改革とブランド力向上」を目的に掲げました。入学者の40%を特別・推薦入試にて確保すること、女子入学率の向上(100周年時に30%)、及び地方出身入学率の向上(100周年時に25%)を目指して、諸活動に取り組みました。

全入学者における特別・推薦入試による入学者の割合は35.0%(前年は31.2%)となりました。2024年入試及び将来の改組・定員増に向けて、連携協定校の拡充(2法人5校)、指定校推薦制度の見直し、特別指定校推薦対象校の設置などを行いました。なお、一般入試の志願者総数(延べ人数)は、36,687名となり、前年比96.9%を確保しました。

女子学生の獲得においては、新たに昭和女子大学附属昭和高等学校と教育連携協定を締結したほか、女子生徒を対象とした座談会やサマーインターンシップ、及びミニオープンキャンパスなどを実施しました。また、公募制推薦(女子)入学選抜を全学部に拡大して実施し、定員64名に対し実人数で75名の出願があり、63名が入学することとなりました。これらの諸活動の結果、2023年度の全入学者における女子入学率比率は21.2%(前年は20.1%)となりました。

地方出身者の獲得においては、地方出身者を対象とした「朝日に輝く奨学金」を新設し、そのプロモーションに力を入れました。結果として、一都六県以外からの入学率比率が17.9%(前年は15.6%)へ向上しました。また、2024年入試以降の対応として、地方からの指定校推薦入学者を増加させるために、地方の新進高校や道府県を代表する工業高校との関係づくり(特別指定校推薦対象校に指定)に努めました。

■ キャリア支援

芝浦工業大学では、2022年度においても就職率の向上と質の高い就職先の実現を目指し、個々の学生に合わせたキャリア支援を展開しました。2023年3月卒の就職実績は98.9%で、前年比で1.7ポイント増となりました。就職率向上に向けて、相談窓口を早朝から夜間、日曜祝日も対応可能な体制を整え、ひとりでも多くの学生にアドバイスをを行い、不安や悩み等の相談に応じました。また、企業や行政の人事採用経験者を招聘し「企業役員人事コンサルティング」を新設しました。学生相談の利用件数は、対前年比3割増の年間約9,000件となりました。効果的なアドバイスを受けた学生が増加し、就職率向上に寄与したものと考えています。今後もこの取り組みを継続発展し、「真に納得できる就職」を実現するために個々の学生に寄り添った支援を行ってまいります。

質の高い就職先の実現については、有名企業400社への就職率向上を目指し、学生への積極的なアドバイスや従来より企業数を増やした「リーディングカンパニー業界研究会」を開催しました。また、2022年度からは有名企業400社への出張訪問も行い、採用実績の増加・維持、過去実績企業の復活、新規企業の開拓等に努めました。その結果、社会環境が戻りつつあるこ



女子生徒サマーインターンシップ集合写真(左)と研究室での活動の様子(右)



面接実践講座

とも相まって、2023年卒の有名400社への就職率は32.2%となり、前年比6.9ポイント増加しました。また、芝浦工業大学校友会との連携による「卒業生企業役員によるパネルディスカッション」やOB・OGと接点を持ち仕事研究を行う「仕事研究フェア」、「合同企業説明会」など毎年恒例の重要イベントをオンラインと対面の組み合わせによるハイブリッド型で開催しました。加えて本学独自の就職支援システム（CAST）も最大限活用することで、学生への情報提供を的確かつ迅速に行いました。

2022年度就職先ランキング (人)

1	NECソリューションイノベータ(株)	21	6	日本電気株式会社	11
2	本田技研工業株式会社	19		日産自動車株式会社	10
3	株式会社SUBARU	16	7	東日本電信電話株式会社	10
4	東日本旅客鉄道株式会社	15		大成建設株式会社	10
	三菱電機株式会社	14			
5	東海旅客鉄道株式会社	14			
	清水建設株式会社	14			

5. 学生支援の充実強化

■ 学生生活支援

2022年9月に芝浦工業大学芝浦キャンパスが豊洲キャンパスに移転したことに伴い、大学院理工学研究科・工学部・システム理工学部・デザイン工学部・建築学部の学生支援は、大宮・豊洲の2キャンパス体制で実施することになりました。

授業においては、新型コロナウイルス感染に伴う活動制限がある中、マスクの着用・換気・消毒・三密の回避等の基本的な感染防止対策を徹底し、対面授業の実施を基本としました。対面授業と併せてライブ配信型授業・オンデマンド配信型授業を組み合わせたハイブリッド授業を全科目において実施しました。また、海外の大学に留学中の学生が本学の開講するオンラインもしくはオンデマンド授業を履修できる制度を整備しました。

<2022年度に新たに整備した主な学生生活支援制度>

- ①芝浦工業大学「朝日に輝く奨学金」の制定
地方出身の指定校推薦による入学者で大学共通テストで基準を満たした者に対して年間50万円×最長4年間の奨学金を給付しました。
- ②芝浦工業大学校友会大学院博士（後期）課程女性研究者育成奨学金の制定
本学大学院理工学研究科修士課程に在学する学生のうち、博士課程に進学を希望する女性1名に対して年間100万円×3年間の奨学金を給付しました。
- ③学校法人芝浦工業大学有元記念留学支援制度の制定
カリフォルニア大学アーバイン校（UCI）に留学する学生に学費等相当額を経済支援しました。
- ④新学生寮の設置
豊洲キャンパスに通学する学生向けに、江戸川区西葛西に提携学生寮としてドミー西葛西3（男子学生専用）とドミー西葛西Lei（女子学生専用）を設置しました。



ドミー西葛西3 (男子学生専用)



ドミー西葛西Lei (女子学生専用)

■ 課外活動支援

<芝浦工業大学2022年度課外活動奨励金表彰団体および主な成績>

- ①自動車部
全日本学生ジムカーナ選手権大会（男子団体の部）3位
機械機能工学科3年 下村渉さん：男子個人の部96名中3位
機械工学科4年 佐々木竜也さん：男子個人の部96名中4位
- ②アメリカンフットボール部
関東学生アメリカンフットボール連盟2部Aブロック4位
初の関東リーグ2部残留ならびに上位進出
- ③サッカー部
埼玉県大学サッカー連盟から東京都に移籍初年度に3部準優勝・2部昇格
土木工学科2年 山田爽太さん：東京都大学サッカー連盟チャレンジャーリーグ（3部）得点王
- ④男子バスケットボール部
関東理工系大学バスケットボール大会（秋季トーナメント）優勝
関東大学バスケットボールリーグ4部昇格
- ⑤硬式庭球部
関東大学テニスリーグ男子6部昇格



サッカー部東京都大学サッカー連盟2部昇格

6. 中高大連携強化と理系女子の育成

■ 芝浦工業大学附属中学高等学校

2021年度からの中高一貫共学化に伴い、中学では大規模なカリキュラム改革を実施しました。新たな教育観の下、特に基幹教科で

ある数学と英語の学び・学ばせ方を見直し、さらにグローバルとITを基軸とした多種多様な探求授業を実践しました。また自立学習を促すための時間を本課内に設け、生徒の学習態度を「教わる・習う」から「考える・学ぶ」へと変化させることで子どもたちの成長を加速させ、自走の学びへと繋げていきます。

また高校では、理工系教育の先進校としてSTEAM教育をさらに進化、発展させ、高大連携のハイレベルな独自の教育プログラムで将来性のある有能な理工系人材の育成を目指します。海外を見据えた短期留学制度を充実させる他、意欲的で向学心の高い生徒を一人でも多く推薦できる推薦制度改革を継続します。

好評の女子児童・生徒向け企画「ガールズデイ」をさらに実効性の高い施策とし、「女性技術者の卵」の発掘へ向けて理工学の魅力を引き続き発信します。

■ 芝浦工業大学柏中学高等学校

2018年度に文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に再指定され、指定の最終年度となる2022年度に中高大連携活動のさらなる深化を図りました。

具体的には、芝浦工業大学の教員が来校し、生徒のポスターセッションについての指導や助言をいただいたほか、課題探究活動におけるコーチ役を通年で依頼しました。さらに、後期に芝浦工業大学への推薦を希望する優秀な生徒3人を大学の研究室で受け入れてもらい講義に参加させるなど、これまでにない取り組みもスタートしました。

また、コロナ禍が落ち着く中で芝浦工業大学の海外協力校であるベトナム・FTP大学の付属高校との連携協定を締結するため、2023年1月に現地に赴き、調印式や現地の生徒との国際PBLを行いました。相互交流の一層の促進を目指します。各種シンポジウムへの積極的参加を促したほか、3年ぶりに対面にて課題探究活動発表会を実施し、全国各地から集った大学や高校の教員など約200人の前で、日ごろの成果を発表しました。

理系女子の育成については、卒業生で芝浦工業大学に進学した女子学生4人の協力を得て、対面による理系女子講演(交流)会を実施しました。当日は中学3年生から高校3年生まで39人が参加し、自身の今後のキャリアについて考える良い機会になりました。

■ 昭和女子大附属昭和高等学校との教育連携協定を締結

芝浦工業大学は、2022年12月に昭和女子大学附属昭和高等学校(東京都世田谷区/校長 真下峯子)と教育連携協定を締結しました。創立100周年となる2027年に女子学生比率30%以上を目標に掲げ、女子生徒がこの教育連携協定の下で実施する探究活動を通じて理工系分野へ進学する意欲を喚起することを企図しています。この教育連携協定により、今後は本学女子学生による分野別の学びの説明会、高等学校教員を対象とした研究室見学、生徒が希望する研究室でのサマーインターンシップ、またインターンシップを利用した特別推薦入学などの実施をして、探究型学習を深化させてまいります。



協定締結の様子(左 真下峯子校長、右 山田純学長)

7. キャンパスや諸設備の整備

■ 芝浦工業大学豊洲キャンパス二期工事計画

創立100周年記念事業の中核事業である豊洲キャンパス第二校舎建設(名称:本部棟(Centennial Main Building))が2022年4月15日に竣工しました。同建設工事は2019年11月に着工し、29か月をかけて完成しました。引渡し後は、セキュリティなどの別途工事、14階内装実装工事、坂茂先生の設計による1階イタリアンレストランとカフェの内装工事が行われ、法人本部、建築学部、デザイン工学部や芝浦キャンパスの事務部門が移転し9月より本格稼働しました。また、本部棟の完成に合わせて、地域交流の場としてフラワーガーデンとシバウラキッズパークを整備しました。



本部棟(左)本部棟前に設置された彫刻(右)

■ 2022年度新設、着工した主な施設設備

① 森の復興

芝浦工業大学大宮キャンパスマスタープランの一つである4号館前の森の復興工事が2023年1月に着工しました。この工事は、ナラ枯れによる木々の損傷が激しいことから、雑木林を整備するものです。ナラ枯れの木を伐採し園路・デッキを設け、エリア一帯を芝生化する工事となります。2023年9月に完成予定です。



森の復興

② 芝浦工業大学豊洲キャンパス本部棟完成に伴う既存棟改修工事

本部棟完成により学部・部署が引越したことから、既存棟の空いた部屋を改修しました。主な工事としては、研究棟5~8階のラーニングコモンズ、レンタルラボ化等改修工事、交流棟1階のアスレチックジムをテクノプラザに改修する工事、アーキテクチャプラザを校友会施設にする改修工事、交流棟生協購買の拡張工事等がありました。

③ 芝浦工業大学芝浦キャンパス改修工事

民間企業に1棟貸しが決まったことから、照明のLED化、空調機械の更新、排煙工事を実施し2023年3月に芝浦工大ビルとして完成しました。

■ 2022年度の主な施設設備の維持管理

① 芝浦工業大学豊洲キャンパス中央監視盤更新工事

竣工後17年が経ち、機器の更新時期が過ぎました。監視盤に組込まれたシステムも古く、またシステムを開発した企業が開発をやめてしまったことから更新する事となりました。

② 芝浦工業大学柏中学高等学校ホール棟GHP室内機更新工事

ホール棟に設置されたガス空調機の室内機の劣化が顕著で、交換部品の残数も限られてきたため、室内機を交換し、空調設備の保全につなげました。

■ 次年度以降に向けての計画・検討

① 芝浦工業大学大宮キャンパス新施設の検討

2023年1月に第一優先交渉者となる実施設計・施工者が決定しました。2023年度は、新施設建設に向けて、各部署の意見を取り纏めて実施設計に反映させる予定です。

② 芝浦工業大学柏中学高等学校再編計画に向けた検討

開校42年を迎えた柏中学高等学校は建物や設備が老朽化しています。今年度は、基本計画を検討し建設の見通しが立ちました。2023年度は、開発許可等の行政協議、地権者との借地の折衝を行い基本設計に移行していきます。

8. 併設校の強化

数多の私立中高の中にあって学校の独自性をより鮮明に打ち出し、基軸はぶれずに社会情勢の変化や価値観の多様化に対応できる学校作り、校務運営に努めます。

芝浦工業大学附属中学高等学校には先進的なSTEAM教育と大学との連携教育、芝浦工業大学柏中学高等学校はSSHの実践と進学校としての高い評価を強みとして両校ともに学校としての特長や個性をさらに強化・尖鋭化させるとともに新たな教育観を見据えた時代に即応できる「新しい学び」を研究・推進します。芝浦工業大学附属中学高等学校は開校100周年に伴う式典他の記念事業を成功裏に終えました。次代に向け恵まれた教育環境を最大限に活用しさらに魅力ある教育活動を実践、展開します。芝浦工業大学柏中学高等学校では、創立50周年を迎える2029年を目途とし新校舎の建設に向けた具体的な検討を本格化させ、新校舎を見据えた魅力ある教育環境の充実を図ります。

また、両校をあげて芝浦中高のブランド力を高め、地域の期待にも応え得る教育力の向上と魅力ある学校風土の醸成に努めます。校内においては教員の働き方改革推進を継続させ、労働環境の整備や待遇の改善を通してさらに魅力ある職場づくりに努めていきます。

9. リスクマネジメント体制の強化

本学は、2011年3月に発生した東日本大震災の直後に、主に大地震などの自然災害に対する備えと、災害後の復旧計画立案のために「危機管理室」を設置しました。以降、「災害危機管理基本計画書」「災害対策本部運営要領」の策定を行い、2019年度には、リスクマネジメントにおける大きな目標であった「事業継続計画（BCP）」をとりまとめ、具体的運用に至った経緯があります。

2019年から2022年まで、新型コロナウイルスの世界的拡大による、さまざまな活動制限を経験しましたが、本学では「事業継続計画（BCP）」に基づき、教学部門のDXを活用した新たな教育方法の構築や、働き方の工夫（テレワーク等の遠隔業務の環境整備）、及びいち早いワクチンの学内接種をはじめとする、学生・教職員健康相談室との連携により、パンデミック発生を回避することができました。現在は、コロナ5類移行方針に沿って、コロナ前同様に対面での活発な学校活動に向けた準備を進めています。

一方、2022年9月より大宮キャンパス、豊洲キャンパスの2キャンパス体制になったことに伴い、「災害危機管理基本計画書」「災害対策本部運営要領」の見直しに着手し、それぞれの各部署が災害に対して自律的に対応できるように、策定のプロセスから協働で見直し検討、策定を目指します。

10. 地域貢献・社会貢献

2022年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により過去2年間中止となっていた6月の「船カフェ」や11月の「豊洲水彩まつり」などの地域の方々や自治体と共に開催したイベントや、芝浦工業大学豊洲キャンパス近隣企業と協業したまちづくり活性化イベントの「豊洲みらいプロジェクト」を再開いたしました。「船カフェ」「豊洲水彩まつり」はまだ一部のイベントでの再開でしたが、「豊洲みらいプロジェクト」は近隣企業を含めた4社共同の本来のスタイルでの再開ができました。

また、大学と地域との交流の場として、芝浦工業大学豊洲キャンパス有元史郎記念校友会館に交流プラザを開設し、公開講座や特別展の開催、大学生の卒業制作などの発表の場として活用も行っています。

大学の第3の機能である「社会貢献」・「地域貢献」の役割を担うものとして、芝浦工業大学が持つ専門知識を広く社会・地域に発信することを使命として開講している公開講座では、幅広い年代層を対象とした講座や親子参加の講座、オンデマンドによる講座を開講し、2022年度38講座、延べ1,200人以上の受講者を集めることができました。

特にキッズ向け講座では、子どもの「ものづくり」に対する興味・感心をそそり、未来の理工系人材を育成する内容の講座を、前後期合計18講座をすべて対面で開講しました。さらに、新しく社会人向けリカレント教育プログラムとして、企業との連携により、企業教育への協力として「橋梁技術基礎講座」を開講しましたが、それを発展させ、教務部門との協働による「履修証明プログラム」の開設をしました。これについては2023年度以降、新コースを開設し、社会貢献のさらなる展開を図ります。



公開講座 なぞとき土木実験 女子編

Ⅲ. 財務の概要

1. 学校法人会計の特徴と企業会計との相違

学校法人は、教育・研究を通じて有為な人材を育成、輩出し、教育・研究活動で得られた成果を社会に還元することを目的としています。収入の大部分を学費と国及び地方自治体からの補助金が占めており、収入がある程度予め固定されているため、支出の増加に際し、短期間で支出に見合う収入の増加を図ることが難しく、運営には予算制度に基づく長期的な財政計画が必要です。学校会計は、このような特性を踏まえて、教育・研究活動を継続的に行うための校地、校舎等基本財産の取得状況や長期にわたる収支の均衡の状況を確認できるよう構成されています。

一方で、企業はモノの生産・販売やサービスの提供を通じて投下した資本を回収するとともに、利潤の追求を主な目的としています。従って、企業会計の目的は収益と費用から当該事業の収益状況を明らかにし、経営成績を判断するべく構成されています。

2. 学校法人会計基準

国または地方公共団体から経常費補助金の交付を受けている学校法人は、文部科学大臣の定める会計処理基準（学校法人会計基準）に従い計算書類を作成することが義務付けられており（私立学校振興助成法第14条）、本学もこれに従い計算書類を作成しています。

3. 2022年度 決算の概要

2022年度の資金収支の規模は391億円となりました。豊洲本部棟建設工事に関する引当特定資産の取崩額の減少などがあり、前年度との比較では97億円の規模の減少となりました。また、予算との比較では、当年度から開始した収益事業からの収入の計上などにより3億4千万円の増加となりました。

支出面では、コロナ感染状況の回復を背景に教育研究経費支出が前年度との比較では12億1千万円増加となりましたが、豊洲本部棟建設工事に関する施設関係支出は前年度との比較では105億円の減少となりました。予算対比では、教育研究経費支出が4億1千万円減、施設関係支出が1億3千万円減となりました。

以上の収支の結果、翌年度繰越支払資金については、支出の減少を上回る収入の減少により、前年度との比較で7億4千万円の減少、予算対比では7億2千万円の増加となり、将来に向けた一定の備えを確保することができました。

事業活動収支に関しては、収入が増加した以上に教育研究経費が増加したことにより、教育活動収支差額は前年度との比較で10億円減の25億円となり、予算対比では7億1千万円の増加となりました。教育活動外収支差額（受取／支払利息などの収支）は、当年度から開始した収益事業からの収入などがあり、前年度との比較で4億1千万円増となったものの、経常収支差額は前年度との比較で5億9千万円減少、予算比では10億3千万円増の28億7千万円となり、経常収支差額比率（臨時的な収支を考慮しない、通常の事業活動による収支バランスを示す比率。高いほど経営の健全性も高いことを表す）は前年度との比較で3.5ポイント減の12.6%となりました。特別収支については、収入は有価証券売却差額を計上し、支出において前年度は会津高原高杖セミナーハウスの売却に伴う資産処分差額があったため、前年度との比較で8億4千万円増の1億9千万円となりました。これらの結果、基本金組入前当年度収支差額は、前年度との比較で2億5千万円増の30億7千万円となり、予算対比では10億7千万円の増加となりました。そして、当年度の施設設備取得、過年度取得資産に係る借入返済や第2号基本金への組入れなどの基本金組入額を計上した結果、当年度収支差額は30億6千万円の収入超過（予算比収入超過額が10億6千万円の改善）となりました。

資産・負債に関しては、豊洲本部棟建設工事に関する建物や構築物などの増加がありましたが、芝浦キャンパスの収益事業化に伴う土地や建物などの減少により、有形固定資産は前年度末比で2億1千万円減少し775億円となりました。特定資産については、2号基本金引当資産へ5億円、減価償却引当資産へ28億円の繰入れを行ったものの、豊洲本部棟建設に係る取崩しなどがあり、前年度末比2億2千万円の増加となっています。また、その他の固定資産において収益事業元入金36億3千万円を計上し、資産の部合計は前年度との比較で31億1千万円増の1,259億円となりました。

負債の部については、借入金の約定返済が10億4千万円となりましたが、収益事業に関する預かり敷金7億9千万円の計上などにより、前年度末並みの152億円となっています。

純資産は、繰越収支差額の収入超過額と基本金の取崩しにより、純資産の部合計では前年度との比較で30億7千万円の増加となりました。純資産構成比率（総資産に占める自己資産の比率。高いほど財政的に安定）は、固定資産および純資産の部の増加により前年度末比0.3ポイント増の88.0%となりました。

2022年度より芝浦キャンパスを賃貸化する収益事業を開始しました。これに伴う収益事業会計に関しては、不動産賃貸料収入4億円、経常利益3億1千万円となり、学校会計繰入支出3億1千万円を計上し、収益事業から学校法人会計に収益を繰入れています。資産の部については、学校法人会計から移した資産や不動産賃貸収入の未収入金などを計上し、資産の部合計47億3千万円となりました。負債の部については、学校法人に繰入れる収益などを計上し、純資産の部合計は36億3千万円となりました。

以上

資金収支計算書

当該年度に行なった諸活動に対応する全ての収入と支出の内容、支払資金の収入・支出を明らかにしています。

(単位：百万円)

科目	① 予算	② 決算	③=①-②	前年度決算
学生生徒等納付金収入 ①	16,839	16,833	6	16,273
手数料収入 ①	1,016	994	22	1,016
寄付金収入 ①	371	422	△ 51	313
補助金収入 ①	2,416	2,526	△ 110	2,526
資産売却収入	0	0	0	1
付随事業・収益事業収入 ②	824	1,225	△ 401	809
受取利息・配当金収入 ②	18	18	0	21
雑収入	651	910	△ 259	653
借入金等収入	0	0	0	5,000
前受金収入	3,169	3,068	101	3,295
その他の収入	6,254	6,539	△ 284	11,298
資金収入調整勘定	△ 3,541	△ 4,168	626	△ 3,612
前年度繰越支払資金	10,759	10,759	0	11,185
収入の部合計	38,776	39,125	△ 350	48,778

科目	① 予算	② 決算	③=①-②	前年度決算
人件費支出	8,977	8,954	23	8,977
教育研究経費支出 ③	7,106	6,695	411	5,478
管理経費支出 ③	1,716	1,786	△ 70	1,399
借入金等利息支出	56	55	1	61
借入金等返済支出	611	611	0	611
施設関係支出 ④	4,602	4,463	138	15,023
設備関係支出 ④	804	937	△ 133	412
資産運用支出	5,544	5,580	△ 35	6,012
その他の支出	376	375	1	358
資金支出調整勘定	△ 305	△ 347	42	△ 312
翌年度繰越支払資金	9,289	10,016	△ 727	10,759
支出の部合計	38,776	39,125	△ 350	48,778

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

POINT 1

学生生徒等納付金収入：授業料、実験実習料などの、いわゆる学費です。学生生徒数約12,080人分。

手数料収入：入学検定料や各種証明書手数料等の収入です。予算比減額となりました。

寄付金収入：内訳①100周年事業：105百万円、②併設校：72百万円、③研究奨励寄付：93百万円、④コロナ支援：12百万円、⑤その他使途特定寄付：140百万円。

補助金収入：国や地方自治体等から本学が受ける各種補助金です。国庫補助金収入が中心となっています。国庫補助金収入には、スーパーグローバル大学創成支援事業40百万円、大学の世界展開力強化事業4百万円などが含まれています。

POINT 2

付随事業・収益事業収入：学生寮や食堂など教育研究活動に付随する事業や、受託研究事業、本学の公開講座受講料等に関する収入です。収益事業収入については、芝浦キャンパスの賃貸化による収益として315百万円を計上しています。

受取利息・配当金収入：奨学基金等の引当特定資産に係る運用果実です。

POINT 3

教育研究経費支出、管理経費支出：教育研究経費には、学科等に直接配分される教育研究経費だけでなく、大学事務部門が所管する各種教育事業経費や、施設設備やIT環境の維持に係る保守清掃費、光熱水費、あるいは修繕工事費などが含まれています。一方、管理経費とは、理事会や間接部門（総務部、財務部など）の業務経費等を指します。補正予算編成時はコロナ感染状況の回復を想定した通常期編成としていましたが、事務経費を中心に予算比の差額が発生しています。主な項目は以下の通りです。

- ・光熱水費の減少(△55百万円)
- ・派遣職員雇用費の減少(△40百万円)
- ・賃借料、保守清掃費用の減少(△375百万円)

一方でコロナ禍における主な学生支援として

- ・学生臨時給付奨学金、コロナ対策授業料減免奨学金(68百万円)などを継続しました。

また、女子学生の入学を促進させる支援として

- ・女子学生入学促進支援金(22百万円)を実施しました

POINT 4

施設関係支出：土地や建物等に関係した支出です。主なものは以下のとおりです。

- ①豊州・本部棟建設事業 3,650百万円
- ②大宮整備計画設計費 150百万円
- ③豊洲・中央監視盤更新 144百万円

設備関係支出：什器や機器備品類関係の支出です。主なものは以下のとおりです。

- ①豊洲本部棟機器備品 192百万円
- ②大型研究設備装置(1件) 63百万円
- ③(豊洲・大宮)コロナ対策無線アクセスポイント機器 50百万円
- ④豊洲図書館拡張整備 37百万円

事業活動収支計算書

当該年度の教育活動収支、教育活動外収支、特別収支に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容、及び基本金組み入れ後の収支の均衡の状態を明らかにしています。

(単位：百万円)

科目		予算	決算	差異	前年度決算	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	16,839	16,833	6	16,273
		手数料	1,016	994	22	1,016
		寄付金 5	343	323	19	256
		経常費等補助金	2,388	2,498	△ 110	2,511
		付随事業収入	824	910	△ 86	809
		雑収入	561	821	△ 259	653
		教育活動収入計	21,971	22,379	△ 407	21,517
	事業活動支出の部	人件費 6	8,877	8,954	△ 77	8,940
		教育研究経費 6	9,551	8,986	565	7,544
		管理経費 6	1,748	1,904	△ 156	1,512
		徴収不能額等	0	24	△ 24	13
		教育活動支出計	20,176	19,868	308	18,009
	教育活動収支差額		1,795	2,511	△ 716	3,508
	科目		予算	決算	差異	前年度決算
教育活動外収支	収入の活動	受取利息・配当金	18	18	0	21
		その他の教育活動外収入	89	404	△ 315	0
		教育活動外収入計	107	422	△ 315	21
	支出の活動	借入金等利息	56	55	1	61
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	56	55	1	61
	教育活動外収支差額		51	367	△ 315	△ 40
経常収支差額		1,846	2,877	△ 1,031	3,469	
科目		予算	決算	差異	前年度決算	
特別収支	収入の活動	資産売却差額	245	245	0	0
		その他の特別収入 5	255	386	△ 130	171
		特別収入計	501	631	△ 130	171
	支出の活動	資産処分差額 6	345	434	△ 88	815
		その他の特別支出	0	0	0	0
		特別支出計	345	434	△ 88	815
特別収支差額		155	197	△ 42	△ 644	
基本金組入前当年度収支差額		2,002	3,075	△ 1,073	2,824	
基本金組入額合計 5		0	△ 10	10	△ 4,194	
当年度収支差額 7		2,002	3,065	△ 1,063	△ 1,370	
前年度繰越収支差額		△ 10,376	△ 10,376	△ 0	△ 9,006	
基本金取崩額		566	600	△ 34	0	
翌年度繰越収支差額 7		△ 7,808	△ 6,711	△ 1,097	△ 10,376	
(参考)						
事業活動収入計		22,579	23,432	△ 853	21,710	
事業活動支出計		20,578	20,357	220	18,885	

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

POINT 5

寄付金：特別寄付金に加え、現物寄付13百万円の金額を計上しています。なお、施設設備の取得に用途を特定した寄付は、特別収支のその他の特別収入に計上されています。

基本金組入額：内訳は以下のとおりです。

- ①第1号基本金組入額：△5,132百万円
施設設備取得に係る組入額5,021百万円と過年度取得した資産に係る借入返済に伴う組入額611百万円から、第2号基本金の先行組入額500百万円を除いたものを組入れました。
- ②第2号基本金組入額：△500百万円
先行組入れとして、100周年記念事業資金(16年計画の12年目)500百万円を組入れました。
- ③第3号基本金組入額：△10百万円
各種奨学事業経費、顕彰事業経費の残額、及び同事業への寄付金を組入れています。
- ④第1号基本金取崩額：6,232百万円
芝浦キャンパスの収益事業化などに伴う取崩を実施しています。

POINT 6

人件費：退職給与引当金の繰入不足額なども計上されています。

教育研究経費、管理経費：資金収支計算書の教育研究経費支出、管理経費支出に、減価償却額(各2,278百万円、117百万円)等が計上されています。

その他の支出(資産処分差額)：既存の建物・構築物、機器等の除却処理を中心に以下のとおり計上しました。

- ①建物処分差額 255百万円
- ②教育研究用機器備品処分差額 94百万円
- ③有価証券評価差額 36百万円
- ④図書処分差額 34百万円
- ⑤構築物処分差額 11百万円 等を計上

POINT 7

当年度収支差額：教育活動収支差額が予算比約7億円の収支改善となったこと、教育活動外収支差額が同比3億円改善したことなどにより、予算比約10億円の収入超過額の増加となりました。

翌年度繰越収支差額：＝当年度収支差額＋前年度繰越収支差額＋基本金取崩額

貸借対照表

当該年度(2022年度)末時点の資産・負債・正味財産を把握し、財政状態を表しています。

資産の部

(単位：百万円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	115,089	111,658	3,431
有形固定資産 ①	77,527	77,738	△ 210
土地	18,111	18,506	△ 395
建物	50,960	32,320	18,640
構築物	2,739	1,936	803
教育研究用機器備品	3,886	3,608	278
管理用機器備品	253	83	170
図書	1,366	1,365	1
車両	20	13	6
建設仮勘定 ①	192	19,906	△ 19,714
特定資産 ②	33,104	32,880	224
第2号基本金引当特定資産	500	500	0
第3号基本金引当特定資産	4,432	4,422	10
施設設備引当特定資産	1,167	1,042	125
退職給与引当特定資産	2,710	2,667	44
減価償却引当特定資産	14,455	15,038	△ 583
借入金返済引当特定資産	1,233	821	413
教育研究環境整備引当特定資産	225	213	12
研究助成引当特定資産	2,953	2,902	51
博士(後期)課程給付奨学金引当特定資産	64	68	△ 4
創立80周年記念事業引当特定資産	62	62	0
将来計画資金引当特定資産	5,300	5,143	157
三浦賞基金引当特定資産	1	1	0
その他の固定資産	4,457	1,041	3,417
電話加入権	8	8	0
施設利用権	11	12	△ 2
有価証券	19	55	△ 36
敷金及び保証金	22	24	△ 1
長期貸付金	761	936	△ 175
長期前払金	5	5	0
収益事業元入金	3,631	0	3,631
流動資産	10,877	11,185	△ 309
現金預金	10,016	10,759	△ 743
未収入金	852	408	444
立替金	3	1	1
前払金	6	18	△ 12
資産の部合計	125,966	122,844	3,122

POINT ①

有形固定資産：当年度の増減要因は下記のとおりです。

①増加要因：豊洲本部棟建設(3,650百万円)、教育研究用機器備品取得(802百万円)、現物寄付(245百万円)他となっています。

②減少要因：芝浦キャンパスの収益事業化(3,247百万円)等のほか、減価償却(建物1,608百万円、構築物190百万円、教育研究用機器備品590百万円)などとなっています。

建設仮勘定：当年度残高の内訳は次のとおりです。

大宮整備工事180百万円、他

POINT ②

特定資産：減価償却引当特定資産から各キャンパス施設設備整備費用を取崩したほか、借入金返済引当特定資産より借入金返済原資を取崩しました。豊洲本部棟建設工事費用は第2号基本金引当特定資産や減価償却引当特定資産を主な財源として取崩しました。一方、積立に関しては、第2号基本金引当特定資産へ500百万円、減価償却引当特定資産に2,795百万円、借入金返済引当特定資産に831百万円などの繰入支出を計上しました。この結果、2022年度末現在の引当特定資産保有高は前年度末比224百万円増の33,104百万円となりました。

貸借対照表

負債の部

(単位：百万円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	9,308	10,347	△ 1,039
長期借入金 ③	6,073	7,111	△ 1,038
退職給与引当金	3,235	3,236	△ 1
流動負債	5,858	4,772	1,086
短期借入金 ③	1,038	611	427
未払金	330	287	43
前受金	3,068	3,295	△ 227
預り金	1,422	579	843
負債の部合計	15,166	15,119	47

POINT ③

長期借入金、短期借入金：当年度末の長期・短期借入金残高合計は7,111百万円となっており、前年度末比611百万円の減少となりました。

POINT ④

基本金

基本金は企業会計にはない、学校会計独自の会計処理です。学校運営に必要な資産のうち、継続的に維持していくべき資産(校地・校舎・機器備品・図書・現金・預金)の額を表したものを「基本金」といい、毎年一定額を組み入れます。また学校法人会計基準第30条第一項において基本金は4つに分類されています。

基本金の種類	目的
第1号基本金	自己資金で取得した校地・校舎、機器備品などの取得額
第2号基本金	固定資産を将来取得するために積み立てた預金などの資産の額
第3号基本金	奨学基金、研究基金などの資産の額
第4号基本金	学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額

第1号基本金：当期自己資金による固定資産取得高(当年度借入金返済高、建設仮勘定からの振替、及び過年度未払金の支払額を含む)から、基本金取崩額を差引いた結果、前年度末比600百万円の減少となりました。

第2号基本金：100周年記念事業資金500百万円を組入れました。

第3号基本金：各種奨学事業経費、顕彰事業経費の残額、及び同事業への寄付金を組入れています。

第4号基本金：基準に基づき組入れまたは取崩し額が算出されており、今年度について増減はありませんでした。

純資産の部

科目	本年度末	前年度末	増減
基本金 ④	117,511	118,101	△ 590
第1号基本金 ④	111,408	112,008	△ 600
第2号基本金 ④	500	500	0
第3号基本金 ④	4,432	4,422	10
第4号基本金 ④	1,170	1,170	0
繰越収支差額	△ 6,711	△ 10,376	3,665
翌年度繰越収支差額	△ 6,711	△ 10,376	3,665
純資産の部合計	110,800	107,725	3,075
負債及び純資産の部合計	125,966	122,844	3,122

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

収益事業会計

本学は、私立学校法に基づき、収益事業を行っています。当該収益事業は、私立学校の経営に関する会計(学校法人会計から区分し、特別の会計(企業会計)として経理することとされています。

本学は収益事業会計の対象事業として、不動産賃貸事業を行っています。

貸借対照表

2023年3月31日

資産の部 (単位：百万円)		負債の部 (単位：百万円)	
科目	金額	科目	金額
流動資産	1,301	流動負債	315
現金預金	100	未払金	315
未収入金	407	固定負債	794
預け金	794	預り敷金	794
固定資産	3,438	負債の部合計	1,108
有形固定資産	3,438	純資産の部 (単位：百万円)	
土地	395	科目	金額
建物	3,026	元入金	3,631
構築物	17	繰越利益剰余金	0
資産の部合計	4,739	純資産の部合計	3,631
		負債及び純資産の部合計	4,739

(注) 減価償却累計額 1,895

損益計算書

2022年4月1日から 2023年3月31日まで

科目		金額 (単位：百万円)	
営業収益			407
不動産賃貸料収入	407		
営業費用			92
修繕費	30		
建物管理費	0		
支払手数料	0		
減価償却費	62		
営業利益			315
経常利益			315
学校会計繰入支出			315
税引前当期純利益			0
法人税、住民税及び事業税			0
当期純利益			0

学校別 事業活動収支内訳表

(単位：百万円)

科目		学校						総計	
		法人	大学	柏高等学校	附属 高等学校	柏中学校	附属 中学校		
教育活動収支	事業収入の部	学生生徒等納付金	0	14,759	700	505	460	409	16,833
		手数料	0	901	23	6	36	27	994
		寄付金	0	280	15	16	8	5	323
		経常費等補助金	0	1,539	342	269	189	159	2,498
		付随事業収入	0	829	42	0	39	0	910
		雑収入	151	540	41	37	21	31	821
		教育活動収入計	151	18,849	1,162	833	754	629	22,379
	事業支出の部	人件費	193	6,831	628	491	416	396	8,954
		教育研究経費	0	8,025	243	321	160	236	8,986
		管理経費	241	1,354	109	59	77	65	1,904
		徴収不能額等	0	24	0	0	0	0	24
		教育活動支出計	433	16,234	980	871	653	697	19,868
	教育活動収支差額		△ 282	2,614	182	△ 38	101	△ 67	2,511
	科目		法人	大学	柏高等学校	附属 高等学校	柏中学校	附属 中学校	総計
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	0	15	1	1	1	0	18
		その他の教育活動外収入	404	0	0	0	0	0	404
		教育活動外収入計	404	15	1	1	1	0	422
	事業支出の部	借入金等利息	0	39	0	10	0	7	55
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	39	0	10	0	7	55
	教育活動外収支差額		404	△ 24	1	△ 9	1	△ 7	367
	経常収支差額		122	2,591	183	△ 47	102	△ 74	2,877
	科目		法人	大学	柏高等学校	附属 高等学校	柏中学校	附属 中学校	総計
	特別収支	事業収入の部	資産売却差額	245	0	0	0	0	0
その他の特別収入			24	329	5	12	0	17	386
特別収入計			270	329	5	12	0	17	631
事業支出の部		資産処分差額	45	382	3	1	1	1	434
		その他の特別支出	0	0	0	0	0	0	0
特別支出計		45	382	3	1	1	1	434	
特別収支差額		224	△ 54	1	11	△ 1	16	197	
基本金組入前当年度収支差額		347	2,537	184	△ 36	101	△ 58	3,075	
基本金組入額合計		0	△ 10	0	0	0	0	△ 10	
当年度収支差額		347	2,527	184	△ 36	101	△ 58	3,065	
(参考)									
事業活動収入計		825	19,193	1,168	845	754	646	23,432	
事業活動支出計		479	16,655	984	881	653	705	20,357	

(注) 表中の数字が四捨五入されているため、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

経年比較 資金収支計算書

(単位：百万円)

区 分		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
収 入 の 部	学生生徒等納付金収入	15,177	15,409	15,809	16,273	16,833
	手数料収入	1,168	1,069	1,011	1,016	994
	寄付金収入	360	343	426	313	422
	補助金収入	2,369	2,451	2,779	2,526	2,526
	資産売却収入	0	0	3	1	0
	付随事業・収益事業収入	755	689	607	809	1,225
	受取利息・配当金収入	71	54	39	21	18
	雑収入	590	529	422	653	910
	借入金等収入	0	0	0	5,000	0
	前受金収入	2,903	2,968	3,190	3,295	3,068
	その他の収入	4,360	3,667	6,226	11,298	6,539
	資金収入調整勘定	△ 3,221	△ 3,096	△ 3,406	△ 3,612	△ 4,168
	前年度繰越支払資金	7,364	8,483	9,858	11,185	10,759
収入の部合計	31,896	32,567	36,964	48,778	39,125	
支 出 の 部	人件費支出	8,535	8,704	8,795	8,977	8,954
	教育研究経費支出	5,677	5,588	5,724	5,478	6,695
	管理経費支出	1,376	1,469	1,209	1,399	1,786
	借入金等利息支出	83	71	61	61	55
	借入金等返済支出	3,127	1,611	611	611	611
	施設関係支出	300	1,188	4,736	15,023	4,463
	設備関係支出	608	606	520	412	937
	資産運用支出	3,534	3,462	4,113	6,012	5,580
	その他の支出	517	334	325	358	375
	資金支出調整勘定	△ 344	△ 324	△ 316	△ 312	△ 347
翌年度繰越支払資金	8,483	9,858	11,185	10,759	10,016	
支出の部合計	31,896	32,567	36,964	48,778	39,125	

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

経年比較 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

科 目		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
教育活動収支	事業収入の部	学生生徒等納付金	15,177	15,409	15,809	16,273	16,833
		手数料	1,168	1,069	1,011	1,016	994
		寄付金	269	292	406	256	323
		経常費等補助金	2,339	2,413	2,711	2,511	2,498
		付随事業収入	755	689	607	809	910
		雑収入	590	529	422	653	821
		教育活動収入計	20,298	20,402	20,967	21,517	22,379
教育活動収支	事業支出の部	人件費	8,591	8,709	8,719	8,940	8,954
		教育研究経費	8,296	8,160	8,104	7,544	8,986
		管理経費	1,473	1,568	1,308	1,512	1,904
		徴収不能額等	47	44	24	13	24
		教育活動支出計	18,407	18,481	18,154	18,009	19,868
教育活動収支差額		1,891	1,921	2,813	3,508	2,511	
科 目		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	71	54	39	21	18
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	404
		教育活動外収入計	71	54	39	21	422
	事業支出の部	借入金等利息	83	71	61	61	55
その他の教育活動外支出		0	0	0	0	0	
教育活動外支出計		83	71	61	61	55	
教育活動外収支差額		△ 12	△ 17	△ 22	△ 40	367	
経常収支差額		1,879	1,904	2,791	3,469	2,877	
科 目		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
特別収支	事業収入の部	資産売却差額	0	0	2	0	245
		その他の特別収入	228	128	142	171	386
		特別収入計	228	128	144	171	631
	事業支出の部	資産処分差額	105	197	167	815	434
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	105	197	167	815	434
特別収支差額		124	△ 69	△ 23	△ 644	197	
基本金組入前当年度収支差額		2,002	1,834	2,768	2,824	3,075	
基本金組入額合計		△ 4,361	△ 3,974	△ 6,209	△ 4,194	△ 10	
当年度収支差額		△ 2,359	△ 2,140	△ 3,441	△ 1,370	3,065	
(参考)							
事業活動収入計		20,598	20,584	21,150	21,710	23,432	
事業活動支出計		18,595	18,749	18,381	18,885	20,357	

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

経年比較 貸借対照表

(単位：百万円)

区 分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
固定資産	104,062	103,063	103,904	111,658	115,089
流動資産	8,773	10,066	11,637	11,185	10,877
資産の部合計	112,835	113,129	115,541	122,844	125,966
固定負債	7,289	6,683	5,995	10,347	9,308
流動負債	5,248	4,314	4,645	4,772	5,858
負債の部合計	12,537	10,997	10,640	15,119	15,166
基本金	103,770	107,713	113,906	118,101	117,511
繰越収支差額	△ 3,472	△ 5,581	△ 9,006	△ 10,376	△ 6,711
純資産の部合計	100,298	102,132	104,900	107,725	110,800
負債及び純資産の部合計	112,835	113,129	115,541	122,844	125,966

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

経年比較 主な財務比率

(単位：%)

比率名・算出方法等	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	状況分析等
事業活動収支差額比率 (自己資金の充実度を示す。高いほど望ましい) 基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入	9.7	8.9	13.1	13.0	13.1	本学は高い水準で推移(私大平均7.2%)。引き続き教育研究活動の機動性を維持する。
基本金組入後収支比率 (低いほど将来の資金充実の目的に合う) 事業活動支出／(事業活動収入－基本金組入額)	114.5	112.9	123.0	107.8	86.9	2022年度は芝浦工大ビルの収益事業化に伴う基本金の取崩があり、収支比率が改善した。
学生生徒等納付金比率 (経営上、安定的に推移することが望ましい) 学生生徒等納付金／(教育活動収入計＋教育活動外収入計)	74.5	75.3	75.3	75.6	73.8	推移は安定しており、他の財源(寄付金、補助金等)も合わせたより盤石な財政基盤の構築を目指す。2022年度は芝浦工大ビルの収入が寄与し比率は低下。
人件費比率 (50%以下の低い水準での推移が望ましい) 人件費／(教育活動収入計＋教育活動外収入計)	42.2	42.6	41.5	41.5	39.3	国際化とダイバーシティを推進しながらも、引き続きこの水準を維持していくことが課題である。2022年度より芝浦工大ビルの収入が寄与し比率は低下。
教育研究経費比率 (高いことが望ましい一方、収支均衡を図る必要あり) 教育研究経費／(教育活動収入計＋教育活動外収入計)	40.7	39.9	38.6	35.0	39.4	私大平均(34.6%)対比、やや高い水準で推移している。2020,21年度はコロナ禍の影響などで教育活動が若干縮小したが、2022年度は同禍の終息により2019年度並となっている。
管理経費比率 (教育研究活動以外の経費の割合。低いことが望ましい) 管理経費／(教育活動収入計＋教育活動外収入計)	7.2	7.7	6.2	7.0	8.4	2021年度までは私大平均(7.4%)と同程度であったが、2022年度はコロナ禍の終息や物価上昇などにより経費率が上昇した。今後は教育研究活動に多くの資金を振り向けることができるよう、効率化を進めていく。
流動比率 (資金流動性を示す。100%以上かつ高いことが望ましい) 流動資産／流動負債	167.2	233.4	250.5	234.4	185.7	2021年度に実施した50億円の借入金に関する「返済期限が1年以内の返済額」を短期借入金へ振替えたことなどにより流動負債が増加し、比率が低下している。
負債比率 (他人資金の割合。低いことが望ましい) 総負債／純資産	12.5	10.8	10.1	14.0	13.7	借入金返済を進めているが、2021年度に50億円の借入金を実施したため高い比率となっている。
純資産構成比率 (50%以上で高いことが望ましい) 純資産／(負債＋純資産)	88.9	90.3	90.8	87.7	88.0	借入金返済を進めることにより、高い比率を維持している。
基本金比率 (高いことが望ましい) 基本金／基本金要組入額	94.7	96.5	97.2	93.9	94.3	借入金返済を進めており、最高限度である100%に近づいている。

(注)「私大平均」：令和3年度 165法人理工他複数学部平均 (日本私立学校振興・共済事業団発行「今日の私学財政」令和4年度版より)

【経営上の課題と今後の方針・対応方策】

上記財務比率の示すとおり、本学の経営状況は問題なく推移しているといえます。とはいえ、大学を取り巻く厳しい経営環境のなかでは、教育研究活動のための環境整備とグローバル化などの戦略事業に対する投資を実行しつつ、将来の投資に備えた蓄えの充実を両立させていくことが必要です。

そのためには、毎年継続的な教育活動収支差額や計上収支差額上の黒字を確保し、減価償却累計額などの要積立額に対して十分な特定資産の蓄積を図ることが重要となります。

本学では、日本私立学校振興・共済事業団が定める「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」において正常値とされるA3区分以上を継続的に達成することを目標とし、その実現のため、収入面では学生生徒納付金の安定的確保、外部資金の獲得強化、寄付金収入の増加に向けた対応策の実施等の施策を推進します。

支出面では、戦略的投資は実行しつつ、支出に対する費用対効果について検証し、収支改善に向けた取組みを継続していきます。

その他

有価証券の状況 (2023年3月31日現在)

(単位：百万円)

区分	帳簿価格	時価	表示科目
株式(株)エスアイテック [※]	6	6	有価証券
株式(株)Luxonus)	14	14	
国債	1,428	1,556	減価償却引当特定資産
事業債	500	505	
計	1,947	2,080	

※本学出資会社(株)エスアイテックに係るものであり、資金運用を目的に保有するものではありません。

借入金の状況 (2023年3月31日現在)

(単位：百万円)

借入先	借入残高	利率	返済期限	用途等
日本私立学校振興・共済事業団	1,000	1.70～1.80%	2025年3月	校舎取得・整備
みずほ銀行	2,256	0.30～1.42%	2033年3月	土地取得、校舎取得・整備
三井住友銀行	2,256	0.30～1.42%	2033年3月	土地取得、校舎取得・整備
三菱UFJ銀行	1,600	0.30～0.32%	2031年8月	校舎取得・整備
計	7,111			

寄付金の状況 (2023年3月31日現在)

(単位：百万円)

区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
特別寄付金	360	343	426	313	422
周年記念事業寄付	74	32	11	87	138
研究奨励寄付	73	92	61	75	93
上記以外の用途特定寄付	213	219	354	150	191
現物寄付	108	39	54	99	259
計	468	382	480	411	681

大学教育改革支援経費等の受入状況

(単位：百万円)

区分		取組名称	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
大学教育再生戦略推進	件数 ^(※1)	大学の世界展開力強化事業(アジア高等教育共同体(仮称)形成促進)				1	
	金額					3	4
地方創生支援事業費補助金	件数 ^(※2)	地方と東京圏の大学生対流促進事業		1			
	金額			17			
国際化拠点整備事業費補助金(スーパーグローバル大学創成支援)	件数 ^(※3)	スーパーグローバル大学創成支援(タイプBグローバル牽引型)					
	金額		51	45	42	44	40
地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)	件数 ^(※4)	「まちづくり」「ものづくり」を通じた人材育成推進事業					
	金額				2		
大学改革推進等補助金	件数 ^(※5)	大学教育再生加速プログラム					
	金額		20	10			
研究拠点形成費等補助金	件数 ^(※6)	成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成					
	金額		4	5	4		
大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)	件数 ^(※7)	デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン				1	
	金額					94	
天然ガス利用設備導入支援事業費補助金	件数 ^(※8)	災害時における生活環境の確保に資する天然ガス利用設備導入支援事業費補助金				1	
	金額					53	
合計			75	77	196	47	44

- ※1 「大学の世界展開力強化事業」は、2021年度から4ヵ年度に及ぶ採択です。
- ※2 「地方と東京圏の大学生対流促進事業」は、2018年度から4ヵ年度に及ぶ採択です。
- ※3 「スーパーグローバル大学創成支援」は、2014年度から10ヵ年度に及ぶ採択です。
- ※4 「まちづくり」「ものづくり」を通じた人材育成推進事業」は、2013年度から5ヵ年度に及ぶ採択です(2020年度は2017年度事業分として受入)。
- ※5 「大学教育再生加速プログラム」は、2014年度から5ヵ年度に及ぶ採択です。
- ※6 「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」は、2017年度から5ヵ年度に及ぶ採択です。
- ※7 「デジタル活用教育高度化事業」は、単年度での採択です。
- ※8 「災害時における生活環境の確保に資する天然ガス利用設備導入支援事業費補助金」は、単年度での採択です。

研究費等外部資金獲得状況

< 科学研究費 >

(単位：百万円)

区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
科学研究費(件数)	114	132	137	150	175
金額(計)	242	249	245	247	273

(注) 科学研究費は研究者等に直接交付される補助金であり、学校会計の帰属収入には含まれず、またここから支出される経費も学校会計の諸支出には含まれません。上記は、本学教員が研究代表者となっている件数と金額(直接経費)です

< 競争的資金(国プロ) >

(単位：百万円)

区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
競争的資金(件数)	58	51	46	61	56
契約額(計)	300	256	268	410	569

(注) 複数年にまたがる契約は年度毎に1件として集計しています。

< 受託・共同研究 >

(単位：百万円)

区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
受託・共同研究(件数)	275	289	222	65	246
契約額(計)	294	272	250	270	283

(注) 複数年にまたがる契約は初年度に1件として集計しています。

関連する法人の概要 (2023年3月31日現在)

会社名	株式会社エスアイテック		所在地	東京都江東区豊洲3-7-5 芝浦工業大学内	
代表者名	代表取締役 中本 仁		設立年月日	1998年6月30日	
従業員数	33人	役員数	5名(うち2名は学校法人の役員(理事・監事)が兼務)		
定款上の目的	警備業務、清掃業務、建物・設備の保守管理業務 有料職業紹介業 損害保険代理業 その他		書籍、教材、文具、事務機器等の販売		
事業内容	翻訳・印刷業、建設業、警備・清掃・保守管理業、人材派遣業、損害保険・生命保険代理店業、リース事業、特別販売事業、イベント企画事業、その他				
学校の行う 教育研究活動との関連	1) 学校法人への寄付(これまでに約12億9百万円の寄付を行う) 2) キャンパスライフ総合保険代理店窓口としてのサービス 3) 研究室機器、備品、事務用機器等の販売 4) 事務職員等の人材派遣				
資本金額	20百万円(200株)				
出資割合	学校法人の持株数	100株	その他の出資者の持株数 (大学後援会60株・校友会40株)	100株	
事業の概要 2022年6月期	売上高	当期損益 (法人税等控除後)	出資元学校法人への		
	2,147百万円	31百万円	寄付金額	家賃・地代等	配当金
			70百万円	3百万円	0円

参考 財産目録の概要 (2023年3月31日現在)

1. 財産目録 (総括)					
資産総額	127,074百万円	内	基本財産	77,568百万円	
負債総額	16,274百万円		運用財産	44,767百万円	
正味財産	110,800百万円		収益事業用財産	4,739百万円	
2. 資産				127,074百万円	
① 基本財産				77,568百万円	
1) 土地	地区	所在地	面積 (百㎡)	価額 (百万円)	
	豊洲地区	東京都江東区豊洲3丁目7番5号	300	8,821	
	大宮地区	埼玉県さいたま市見沼区大字深作307番他	1,702	1,825	
	新豊洲地区	東京都江東区豊洲6丁目2番7号	145	6,228	
	柏地区	千葉県柏市増尾700番他	448	1,228	
	その他	埼玉県さいたま市西区大字二ツ宮113番1号他	1	9	
計			2,596	18,111	
2) 建物	地区		面積 (百㎡)	価額 (百万円)	
	豊洲地区		1,018	35,811	
	大宮地区		651	8,557	
	新豊洲地区		181	5,135	
	柏地区		158	1,451	
	その他		1	5	
計			2,008	50,960	
3) 図書	種別	冊数 (千冊)			価額 (百万円)
		内国書	外国書	計	
	図書	263	17	280	1,270
	学術雑誌	17	17	33	96
計		280	33	313	1,366
4) 教具・校具 及び備品	名称又は種類		数量 (千点)	価額 (百万円)	
	教具・校具		60	3,304	
	備品		5	835	
計			64	4,139	
5) その他	種類	主な内容	金額 (百万円)		
	構築物	各校舎の給排水施設、緑化施設など	2,739		
	車両	コートローラー、警備用巡回車両など(42台)	20		
	電話加入権	88本	8		
	施設利用権	予備電力供給施設など	11		
	敷金及び保証金	東大宮学生寮敷金など	22		
	建設仮勘定	大宮キャンパスマスタープラン設計業務委託料など	192		
	計			2,992	

② 運用財産		44,767百万円	
1) 預金	預金種別		金額(百万円)
	普通預金		8,923
	振替貯金		1,090
	計		10,013
2) 現金等	種別		金額(百万円)
	手許現金、郵便切手		3
	計		3
3) 積立金	内訳		金額(百万円)
	第3号基本金引当特定資産	4,432	普通預金
			4,432
	上記以外の特定目的引当特定資産	28,672	普通預金
			26,244
		定期預金	500
		有価証券	1,928
	計	33,104	33,104
(注)各引当資産の運用は、「保有形態」欄記載の金融商品によっています。			
4) 有価証券	内訳		金額(百万円)
	「株」エスアイテック」普通株式100株		6
	「株」Luxonus」A種優先株式166株		14
	計		19
5) 長期貸付金	内訳		金額(百万円)
	芝浦工業大学貸与奨学金		887
	芝浦工業大学後援会貸与奨学金		16
	徴収不能引当金など		△142
	計		761
6) 未収入金	内訳		金額(百万円)
	学生生徒等納付金、国庫補助金、私学退職金団体交付金他		862
	徴収不能引当金		△10
	計		852
7) 前払金	内訳		金額(百万円)
	長期前払金		5
	短期前払金		6
	計		11
8) 立替金	内訳		金額(百万円)
	立替金		3
	計		3
③ 収益事業用財産		4,739百万円	
1) 預金	預金種別		金額(百万円)
	普通預金		100
	計		100
2) 未収入金	内訳		金額(百万円)
	不動産賃貸収益		407
	計		407
3) 預け金	内訳		金額(百万円)
	敷金		794
	計		794
4) 土地	地区	所在地	面積(百㎡)
	芝浦地区	東京都港区芝浦3丁目9番14号	26
	計		26
5) 建物	地区	所在地	面積(百㎡)
	芝浦地区	東京都港区芝浦3丁目9番14号	125
	計		125
6) 構築物	預金種別		金額(百万円)
	給排水施設、交通施設、緑化施設など		17
	計		17

3. 負債	16,274 百万円
-------	------------

① 固定負債	9,308 百万円
--------	-----------

	種類	金額(百万円)	利率	返済期限	用途等
1) 長期借入金	日本私立学校振興・共済事業団	500	1.70% ~ 1.80%	2025年3月15日	校舎取得、整備資金
	市中金融機関	5,573	0.30% ~ 1.42%	2033年3月21日	校地・校舎取得、整備資金
	計	6,073			
2) 退職給与引当金	内訳				金額(百万円)
	退職給与引当金				3,235
	計				3,235

② 流動負債	5,858 百万円
--------	-----------

	種類	金額(百万円)	利率	用途等
1) 短期借入金 (長期借入金の内1年以内の返済分)	日本私立学校振興・共済事業団	500	1.70% ~ 1.80%	校舎取得、整備資金
	市中金融機関	538	0.3% ~ 1.42%	校地・校舎取得、整備資金
	計	1,038		

2) 前受金	内訳				金額(百万円)
	学費前受金				3,037
	学費以外の前受金				31
計				3,068	

3) 未払金	内訳				金額(百万円)
	未払金				330
計				330	

4) 預り金	内訳				金額(百万円)
	教職員関係預り金(源泉税、住民税他)				153
	学生生徒関係預り金(各種代理徴収金他)				305
	その他の預り金(収益事業からの預り金他)				965
計				1,422	

③ 収益事業用負債	1,108 百万円
-----------	-----------

1) 未払金	内訳				金額(百万円)
	未払金				315
計				315	

2) 預り敷金	内訳				金額(百万円)
	預り敷金				794
計				794	

4. 正味財産	110,800 百万円
---------	-------------